

別海町議会会議録

第2号(平成22年9月15日)

議事日程

日程第 1

会議録署名議員の指名

日程第 2

一般質問

11番	中村忠士	議員
9番	戸田博義	議員
12番	佐藤初雄	議員
7番	丹羽勝夫	議員
5番	瀧川榮子	議員

会議に付した事件

日程第 1

会議録署名議員の指名

日程第 2

一般質問

11番	中村忠士	議員
9番	戸田博義	議員
12番	佐藤初雄	議員
7番	丹羽勝夫	議員
5番	瀧川榮子	議員

出席議員(17名)

1番	西原浩	2番	沓澤昌廣
3番	福原春夫	4番	安部政博
5番	瀧川榮子	6番	山田信
7番	丹羽勝夫	8番	松原政勝
9番	戸田博義	11番	中村忠士
12番	佐藤初雄	13番	池田幸雄
14番	安田輝男	15番	山崎賢一
16番	佐々木春男	17番	横堀昭康
議長	18番 渡邊政吉	副議長	

欠席議員(1名)

10番 戸田憲悦

出席説明員

町長	水沼猛	副町長	磯田俊夫
教育長	山口長伸	代表監査委員	鈴木英世

監 査 委 員 下川原 洋
 福 祉 部 長 田 村 秀 男
 建 設 水 道 部 長 田 中 忠 敏
 監査委員事務局長 半 田 雅 代
 病 院 事 務 長 真 籠 毅
 総 務 部 次 長 有 田 博 喜
 福 祉 部 次 長 守 川 昇
 産 業 振 興 部 次 長 土 井 一 典
 総 務 課 長 宮 部 正 好
 総 務 課 参 事 佐 藤 則 夫
 税 務 課 長 干 場 俊 昭
 福 祉 部 付 課 長 松 壽 和 広
 福 祉 課 参 事 清 水 純 夫
 特 老 施 設 長 村 井 勉
 老 健 事 務 長 清 尾 昌 弘
 環 境 特 別 推 進 室 長 佐 藤 康 男
 商 工 観 光 課 長 岡 田 一 芳
 事 業 課 長 天 田 豊
 上 下 水 道 課 長 永 野 寛 昭
 病 院 事 務 課 長 佐 藤 一 彦
 学 務 課 参 事 今 井 道 春
 図 書 館 長 中 川 浩

総 務 部 長 小 守 正
 産 業 振 興 部 長 飯 島 孝 二
 教 育 部 長 根 本 幸 三
 農 委 事 務 局 長 森 本 哲 男
 会 計 管 理 者 上 月 昭 彦
 福 祉 部 次 長 笠 原 悦 雄
 福 祉 部 次 長 松 本 光 永
 建 設 水 道 部 次 長 大 島 登
 総 合 政 策 課 長 有 田 博 喜
 財 政 課 長 竹 中 仁
 福 祉 課 長 松 本 光 永
 町 民 課 長 斎 藤 英 彦
 保 健 課 長 佐 藤 秀 明
 デイサービスセンター長 中 澤 信 明
 農 政 課 長 山 崎 茂
 水 産 み ど り 課 長 藤 原 繁 光
 管 理 課 長 木 村 功 男
 事 業 課 技 術 長
 (病院建設準備室長) 山 岸 英 一
 出 納 室 長 相 山 一 晴
 学 務 課 長 佐 藤 英 敏
 生 涯 学 習 課 長 下 地 哲

議会事務局出席職員

事 務 局 長 佐 藤 次 春

主 幹 山 田 一 志

会議録署名議員

1 1 番 中 村 忠 士
 1 3 番 池 田 幸 雄

1 2 番 佐 藤 初 雄

開議宣告

議長（渡邊政吉君） おはようございます。

若干、時間前でございますけれども、皆さんおそろいでございますので始めたいと思います。

ただいまから、第 2 日目の会議を開きます。

ただいま出席している議員は 17 名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

なお、欠席議員は、10 番戸田憲悦議員であります。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第 1 会議録署名議員の指名

議長（渡邊政吉君） 日程第 1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 119 条の規定により、議長において指名いたします。

11 番中村議員、12 番佐藤議員、13 番池田議員、以上 3 名を指名いたします。

日程第 2 一般質問

議長（渡邊政吉君） 日程第 2 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次、発言を許します。

なお、10 番戸田憲悦議員から、一般質問を取り下げる旨の申し出があり、許可いたしたもので御報告をいたします。

それでは、初めに、11 番中村議員、質問者席にお着きを願います。

なお、質問は、一問一答方式でございます。

11 番（中村忠士君） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

1 点目ですが、最近の自衛隊の演習について質問いたします。

その第 1 点目でございますが、8 月 6 日は承知のとおり、広島原爆被爆の日であります。9 日は長崎被爆の日、また 15 日は終戦の日であり、この時期は日本国内外のすべての原爆犠牲者、戦争犠牲者への慰霊と、そして反省を誓う大事な時期であります。しかし、矢臼別演習場では、この 8 月 6 日も 9 日も 15 日も、大型火砲の実弾射撃演習が行われました。せめてこの日だけは静かに供養の時を送りたいというのが、多くの国民・町民の願いではないでしょうか。8 月 6 日、9 日と 15 日を含めたお盆の時期には、射撃演習は取りやめるべきだと思いますけれども、町長の見解並びに今後の対応策をお聞かせ願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） まず、中村議員の御質問にお答えをする前に、戸田憲悦議員が、一般質問を本日予定されておりました。昨日、定例会終了後、緊急入院されたということを知っております。心からお見舞いを申し上げますし、また、一刻も早い回復を心から願っているところであります。

それでは、お答えを申し上げたいと思います。

まず、この問題につきましては、役場には 8 月 6 日に抗議を含め 4 件の電話がありました。その内容についてでございますが、「8 月 6 日の原爆の追悼大会をやっているのに演

習の音がしている。6日、9日、15日は、平和のことを考える日なのに戦争の訓練をしていることに怒りを感じる、ぜひやめていただきたい」などの苦情の電話がありました。早速、駐屯地総務班へ連絡をいたしたところであります。また、この際に、駐屯地に対しましても直接苦情の電話が入っている旨、報告を受けたところでもございます。

町といたしましても、お盆における訓練の実施については、毎年、駐屯地、北部方面本部、北海道防衛局、また帯広支局に対し、自粛するよう要請をいたしているところですが、駐屯地からは訓練は限られた期間の中で、射撃時間等一定のルールを遵守しながら、粛々と実施していると聞いているところであります。このような事情を考慮し、当町といたしましては、お盆の時期だけでも自粛していただけるよう、今後、引き続き要請をしてみたいと考えているところであります。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 11番中村議員。

11番（中村忠士君） 町長並びに町の基本的な姿勢については今お聞きして、引き続き静かなお盆が過ごせるようにということで、要請を続けていっていただきたいと思うのですが、ちなみに2009年、昨年とことし、どういう状況であったかということを町長御存じだと思いますが、確認の意味でちょっとさせていただきますと、2009年、昨年は8月1日から4日まで、8月に入ってからのお知らせによるものでございますけれども、1日から4日までは203ミリ等の砲撃訓練が行われたのですが、5日から8月15日の間、11日間ですか、その間は演習は行われていません。これは町の働きかけにもよるものかというふうに思うのですけれども、ことしは8月については15日まで、ほぼびっちり演習が行われたということでもあります。つまり私が言いたいのは、2009年のように5日から15日までの間、演習を休止することも可能なのであると、これが2009年に示されているわけですから、ぜひ引き続き静かなお盆を町民が過ごせるように要請を続けていっていただきたいと、こういうふうに思います。

2点目の質問に移らさせていただきます。

陸上自衛隊の北部方面隊の総合戦闘力演習が、玄武2010というふうに呼ばれているのだそうですけれども、この総合演習が行われています。9月22日までの予定であるというふうに聞いていますけれども、ほぼ1カ月間のこの演習の一部が、矢臼別演習場でも展開されておるところであります。そこで、町道のすぐわきで、塹壕用のものの構築訓練が行われたのですね。広大な演習場にもかかわらず、町道のすぐわきで、時には交通の障害にもなるようなやり方で、つまり町道を横切ってササなどを刈り取って運ぶと、演習場内に運ぶという、町道を横切った作業なども行われていました。

そういうようなことで、交通の障害にもなるようなやり方で演習が行われるのはなぜなのだろうと、広大な演習場にもかかわらず、町道のすぐそば・わきで行われるということは何故なのだろうと、これは率直に言って疑問がわくわけですね、そういう状況がありました。町民の安全で安心感の持てる通行や生活のために、町道付近での演習は避けるべきだというふうに思うのですけれども、町長の見解をお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

この件につきましては、8月25日午前に総合政策課に、午後には管理課にそれぞれ1回ですが、町民の方から電話で要請を受けたところでありましたので、午後から総合政策課、管理課及び別海駐屯地の演習場管理班とともに、現地確認を行ってきております。

現地におきましては町道西春別茶内線、これと並行して縦、約３メートル、横８０センチ、深さ２メートルの穴が掘られておりましたが、町道敷地外であることを確認をいたしております。この穴の使用目的等につきましては、中村議員もおっしゃられておりましたが、一切、我々としても把握をしておりませんが、町道付近での穴の掘削等については、現在、実施している北部方面隊総合戦闘力演習玄武２０１０における防御陣地の構築の一環としての訓練であると、推察をいたしているところでございます。

町といたしまして、演習場敷地内などにおける訓練内容については、町民に直接被害等が及ぶようなことは絶対にあってはならないことと認識しておりますが、射撃時間など一定のルールを遵守して実施されるものであれば、特に問題はないものと判断をいたしているところであります。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

１１番（中村忠士君） これは町が直接運営しているものでないので、これはわからないというふうにおっしゃれば、それまでのことなのですけれども、広大な演習場の中でなぜ町道付近でそれが行われるのかというのは、率直に言って疑問であります。これは作戦、訓練上そうなのだというふうに言われればそれまでですけれども、そこら辺でその疑問に答えるような町の何らかの働きかけがあったのだろうか、そこをお聞きしたいのですね、一つは。

それから、町民に影響がないということであれば、よしとするというふうにおっしゃったわけですが、全く影響がないわけではないわけです。そこを通る人たちが現実にいるわけですし、先ほど言ったように、町道をまたいで作業が行われるということもあります。あるいは演習で、迷彩を施した隊員が顔にもドーランを塗って、迷彩を施した隊員が塹壕を掘っている、あるいは完全武装した隊員が、それを見守るような訓練が行われていると、それは町道付近で行われていると、精神的にも大変不安を感じるような状況である。私もこの目で見てきましたけれども、そういうことで影響は与えないというふうにおっしゃったけれども、それは影響を与えていますと私は思うのですけれども、その２点どうでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 先ほどもお答えをしたのかなと思いますが、まず、この必要性については我々も詳しく訓練内容については承知しておりませんので、詳しいことは言えませんけれども、何らかの必要性があって多分やられていることだろうと、推測をいたしているところでもございます。

そして、先ほども言いましたように、町民の皆さんの安全これが脅かされるような状況であれば、当然、我々としては強い抗議をしなければならないと思っておりますが、そういう状況にはないのではないかとということを判断したわけでありまして、先ほどもお答えをしたところでありますが、特に一定のルールをしっかりと守られている中で行われていることであれば、問題はないのだろうということで先ほどお答えをしたところであります。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

１１番（中村忠士君） そこは、町民に対する影響の問題では、町長はそういうふうにとらえられておりますけれども、これはぜひ現実にそういう訓練が行われている場所に職員、派遣したというふう、現地確認をしたというふうになっていきますけれども、それは

そういう兵員が具体的に動いている場所を確認しているのでしょうか、それはどうでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えをしますが、実際に職員、また駐屯地の皆さんと視察、現地確認に行ったときには、その時には演習が終了しているような、動きのない状況の中で現地確認を行った、そういうことであります。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） ぜひ現地での具体的な様子を知っていただきたいというふうに思います。これ以上、私、申し上げませんけれども、今後の問題もありますので、つばさに現状をきちっと町としても把握する努力を続けていただきたいというふうに思います。

では、大きな項目2点目の質問に入らせていただきます。

戦争遺跡・証言等の発掘や保存について、お伺いをしたいというふうに思います。

5年前になりますけれども、平成17年6月議会で私が、「戦争の記録とか証言、戦争遺跡の収集・発掘・保存を進めるべきと思うが」という質問をしました。それに対して山口教育長は、「郷土研究会などの協力をもらいながら、関係資料の収集・整理・保存を行っていきます」と答弁されています。その後、この取り組みはどこまで進んだか、経過、現状と課題、今後の方針と具体的計画についてお聞かせ願いたいと思います。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 平成17年6月議会において、中村町議より、「戦後60年の節目として、戦争にかかわる記録・証言の収集・保存について真剣に考える必要があるが」との質問がありました。教育委員会としましては、その必要性を認識し、別海町郷土研究会などの協力をいただきながら、関係資料の収集・整理・保存を行っていくと、そういう答弁をいたしました。

別海町における戦争遺跡や戦争史実としては、旧計根別飛行場跡の別海町本別地区に存在する掩体壕、あるいは地域に現在も残る奉安殿、さらに空襲記録等が考えられます。これらについて、別海町文化財保護審議会の中でも、話題として取り上げられておりました。また、歴史を深く調査・研究している研究家も町内外におられ、個人的に資料収集していることも伺っております。今後は、潜在している個人研究家が持つ資料等を顕在化し、町として収集・整理・保存することが大切であると認識しているところであります。

そのためには、研究者同士の人的なつながりを持つ別海町郷土研究会会員の協力を得ることは必須であり、ぜひ協力をいただきたいと考えております。ただ、郷土研究会が現在取り組んでいるのが、自然保全の問題、つまり風蓮湖の動植物に関する研究に集中しており、その進捗状況を見ながら協力を求めたいと考えております。

戦後65年を過ぎ、緊急な課題として考えられるのは、戦争等を体験した方々が高齢になり、体験者の証言などを今、残さなければ消えてしまうことであります。その体験などを記録として残す手段として、西公民館では、「西春別平成寿大学」の中で、在学生による「私の伝えたいこと」と題した意見発表会を平成18年度に計画し、その後19年度、20年度と続けてきております。開拓の歴史や悲惨な戦争の足跡を、高齢者である学生みずからの実体験として物語る貴重な史実として、記録できるものであります。また、機会があれば、次世代の子供たちに聞かせることができることから、今後も広くほかの寿大学

の中でも実施するよう考えております。将来的には、発表記録を集大成し、別海叢書の発刊を予定しております。

いずれにいたしましても、開拓の歴史や悲惨な戦争の証言や体験談など、諸先輩の記憶として残っているものを聞き出し、記録として残すことは急を要することです。郷土資料館や公民館等で取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 教育長の今の御答弁をお聞きして、一定のこの時期どうしても進めなければいけないという決意も含めて伝わってまいりましたので、ぜひ進めていただきたいなというふうに思いました。とりわけ別海叢書の発刊を目指すのだという明確な目標も、今、提示されましたので大変力強く思います。

少し具体的な問題でお聞きしたいと思うのですが、5年前の6月議会で教育長がこういうふうにもおっしゃっているのですね。戦時中を含む郷土資料として、個人等から当時使用していた必需品の寄贈をいただき、郷土資料館に保存していると、あるいは郷土研究会から資料提供などもいただいている。さらに、当時を知る方々に集まっていただき、座談会を行ってカセットテープに保管している。これは終戦60年を記念して、そういうことをやったと、座談会をやって、それをカセットテープに保管しているというふうにおっしゃっていました。今の御答弁を聞くと、その後も幾らかの収集が行われているというふうにおっしゃったというふうに思うのですが、そういうもののカセットテープ、5年前のカセットテープも含め寄贈いただいたものの含めて、保管はどういうふうになっているのか。郷土資料館の中にどの程度、保管の状況がどういうふうになっているのかというのを少し心配であります。そこら辺で、状況がどうかということをお知らせ願いたいと思いますが、わかっている範囲で。そして保管にはいろいろ湿度の関係とか、あるいは一番おそろしいのは湿気から守っていくということだと思いますけれども、あるいはほこり等から現存しているものをちゃんと保管するというもの、それからカセットテープについても保管をしっかりとしないと劣化しますから、そういうようなことで、かつて収集したもの、あるいは近い期間に収集したものの保管というものを具体的にどう考えているか、ちょっとお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） ただいまの御質問にお答えいたします。

保管というのが、非常に難しい状況にあるのは確かです。つまり湿度とかあるいはほこりだとか、そういうことを考えますと、なかなかきちとした保管場所がないというのも現状です。ですから、それぞれの箇所で、できるだけ大事にしているということしか申し上げられません。つまりカセットテープ、あるいは8ミリのフィルム、こういうものはどんどんどんどん劣化しておりますので、今、時には個人の力をお願いして、そういうものをもう一度VTRにCDに取り込んだり、そういうことを進めているところですが、これをこうしなければならぬというきちとした法則といいますか、約束事みたいなものが余りないので、正直なところ。ですから、個人の力、あるいは郷土資料館とか図書館とか、そういうところに静かに眠らせているというようなそういう状況であります。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 早急に、それほど手間はかからないと思うのが、デジタル化でありますね。アナログのテープレコーダーのテープについてもデジタル化、これはそんな

に手間かからずにやれると思うのですよ。あるいは写真なども、放っておけばどんどん劣化しますから、これをデジタル化すると。デジタル化する際にも、バックアップをしっかりと考えれば、劣化にも対応できるというふうに思いますので、ぜひやれるところからデジタル化も進めておられると思うのですが、少し力を入れていただきたいというふうに思います。

それから、別海の沿革史、旅路という本が労作としてつくられていますけれども、これを見ると、戦争遺跡が具体的に記述されています。例えばで言うと、本別海の稲荷神社境内に忠魂碑があるとか、それから北鳴地区に朝鮮道路というふうに呼ばれているという道路があるとか、あるいは先ほど教育長がおっしゃられましたように、旧陸軍のいわゆる計根別飛行場群の跡、それから先ほどおっしゃられた忠魂碑、それから西春別神社境内に慰霊碑があるとか、あるいは軍馬補充部の根室支部跡に土地の境界線標識などあるとかということが、これに書かれております。せめてそういうものの保存というか、なかなか難しいところもあるのだと思うのですが、ここに書かれている戦争遺跡については保存するのだというような、せめてそういうことを具体的に進めることができないかというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 今、中村議員御指摘の旅路の冊子なのですが、それは榎山満夫さんが個人的に資料収集して発刊したものです。もちろん教育委員会、あるいは図書館にも寄贈されておりますので、大事に保存されておりますけれども、非常に別海町隅々まで調べた労作だととらえております。問題は、今の遺跡の保存の件ですけれども、中には個人の所有地、つまり前に答弁しましたけれども、掩体壕は今、個人の所有地ですので、あくまで個人の持ち物として、それを壊してしまうと言ったら変ですけれども、しまわれたらそれでおしまいだと、そういうようなとらえ方をしています。公用地にあるのであれば、ある程度の保存はできるかと思いますが、そういった点でちょっと難しい部分があるのではないかと考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 個人の所有地であると、なかなか難しいという御答弁でした。それはそのとおりだなというふうに思います。その土地を持っておられる方に、いろいろな考えがとおりでしょうから、それを度外視して、大事だからどうこうするというふうなことはならないだろうというふうに思うのですけれども、ぜひ町なり教育委員会の姿勢というものは伝えるべきではないかというふうに思います。せめてこういうふうに考えているのだけれども、どうだろうというようなことは、やる気になればお金かからずにやれることだと思いますから、姿勢だけでもお知らせして相談するというようなことはできないかということをまず一つ、提案させていただきたいと思います。

それから、なかなか及ばないのが、北鳴地区に朝鮮道路と呼ばれる道路があると、それからそういう意味では計根別飛行場群の建設にかかわっては、多くの朝鮮の方々が半ば、多分、強制労働という形で従事させられたのだというふうに思いますけれども、朝鮮の方々、それから民族的に差別されていたアイヌの方々が、戦争中に大変苦勞されているというようなことに関して、この別海町で何が起こったのか、そういう方々、非差別の方々がどういう処遇をされたのかというようなことも、きちっと保存する必要があるだろうというふうに思うのですが、その2点についてどうでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 中村議員御指摘のお金をかけずにやれること、これはすぐできます。金をかけないでやること、これはお約束いたします。

次に、北鳴の朝鮮道路とか、あるいは計根別飛行場の朝鮮民族に対する差別的な強制労働とか、そういった面については私もいろいろなところで聞いておりますが、それをまとめた本というのはまだ見たことがありません。この辺については、やはりその地域に住む古老という言い方はちょっと失礼かもしれませんが、老人に聞き取り調査をするしかないのではないかと思います。つまり、先ほどの歴史の掘り起こしといいますか、そういったことも含めてやっていけるところから進めていきたいと考えています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 5年前から見て、計根別飛行場の建設の現場を見ている方々というのが、私の知っている限りで2人か3人ぐらい、この5年間で亡くなっているのです。本当に詳しく知っている方が、そういう形で御高齢で亡くなられるという状況になっています。先ほど、教育長が、今、急いでやらなければいけないというふうにおっしゃったので、私もそこに期待を持つわけですが、本当に今やらなければ亡くなるという状況ですので、急いでいただければと思います。

この件について、最後の質問ですけれども、郷土資料館の果たす役割というのは、非常に大きいというふうに思いますね。そこで教育委員会が発行した平成21年度の事務の点検及び評価報告書、これ本当に素晴らしいと思うのですよ。こういうふうに自己点検されているということは、素晴らしいことだというふうに思うのです。これちょっと中身見させていただいたのですけれども、郷土資料館に関することについて報告が載っています。郷土資料の収集・整理・保存・調査研究、あるいは歴史や自然に関する調査研究というものが、多少不十分なところはあるけれども、進んでいるよという報告です。これを見ますと。ただ、後顧資料や加賀家の文書に関する事項が中心になっているのですね。今、急いでやらなければいけない戦争遺跡等の、あるいは証言等の収集に関しては、ちょっとが手がついていないのではないかと、この報告を見る限りは、重点的にはなっていないのではないかという気がします。

そこでぜひ平成22年度は、そこもやったよというふうな評価ができるようにしていただきたいということと、郷土資料館については建て直しの計画もあるようでございまして、それが今、計画の具体化というか、そういうものがどの程度になっているかということをお伺いします。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 平成21年度の事務点検評価報告書に対しての御質問ありました。

確かに、内容的には加賀文書館、そして後顧資料についての研修、その報告が多かったと思います。今、急がなければならない古老からの聞き取り、これを平成22年度の目玉に据えていきたいと考えております。ただ、人数的に1人しか正直なところおりませんので手狭です。非常に苦しいところがあります。これについては、やっぱりボランティア、あるいはほかの郷土研究会にもお願いして、少しずつできるところから進めてまいりたいと考えております。

もう1点の郷土資料館の建て直し計画、これまだ具体化にしておりません。長期の計画

によりますと１０年後、ことしですから９年後ぐらいにはということで、少しずつどんなものを建てたらいいのかということで計画しております。けれども、今、豊原小学校・美原小学校が廃校になりまして、その跡地を分館として活用していきたいというところまでは話が進んでおります。ですから、豊原小学校には、あそこには結構、豊原地区の開拓資料が残っておりますので、それと合わせて分館的な物の考え方をしているところです。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

１１番（中村忠士君） 繰り返しになりますけれども、教育長並びに教育委員会の活動に期待をして、この件での質問終わらせていただきます。

３点目の質問に入ります。

教職員健康診断で起こった問題についてであります。ことしの教職員の健康診断において、西部地域では例年、午前１０時半ころに終了していたものが、昼過ぎまでかかるという状況が起こっています。通告では、またその後というふうに通告してありますけれども、その後というのは、これを入れると前後関係が不正確になりますので、その後という言葉を取ります。また、教職員のカルテが、教育委員会の棚に無造作に置かれていたという事態も発生しています。

これは一例なのですけれども、最近、教育委員会の事務的な不手際が目立つという声が、現場から聞こえてきます。これは単に個人的問題ではなくて、職員構成や連絡・伝達体制等に問題があるのではないかと推測されます。職員の数が減っている等の関係もあるのかなというふうに思います。そういう事態が起こっていることに関して、教育長の見解並びに今後の対応策についてお聞きしたいと思います。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 中村議員の質問についてお答えをいたします。

まず、事実確認でございますが、教職員健康診断の巡回検診は、社団法人日本健康倶楽部北海道支部と契約し、７月２６日と２７日の２日間にわたって実施いたしました。２６日は、上西春別小学校を会場とした西部地区、そして次の２７日が別海中央小学校を会場として中部・東部地区の教職員を対象として実施しました。なお、都合により受診できないほかの市・町の教職員も対象となっております。

今回、西部地区では受診者１０６人で、そのうち中標津町の教職員が１５名、根室市の教職員が４名含まれておりました。午前７時から検診を開始し、午前１０時３０分ころ中標津町の教職員５名が入り、１１時ごろ終了したとの報告を受けております。例年より受診者が多く、１５分から３０分程度、終了時間が延びたものと思われます。

次に、カルテの件でございます。これは教職員健康診断受診票を各学校に配付する際、７月２１日に各学校の公務補を対象とした会議を開催いたしました。この会議終了後に、自分の学校の教職員の受診票を持ち帰ってもらうため、学校ごとに受診票を封筒詰めて棚入れしたものです。なお、会議に出席できなかった学校へは、別便で送付いたしました。

検診結果については、つまり中村議員のおっしゃるカルテですけれども、これは個人情報ですから、検診機関から送られてきた受診者の結果票を各学校へ送付しております。

以上が、教職員健康診断の様子でございます。

また、職員の事務的な不手際があるとすれば、早急に是正いたします。中村議員御指摘

の学校教育・社会教育・社会体育等いろいろな現場からの声には、これを真摯に受けとめてまいります。

さらにハウ・レン・ソウ、つまり報告・連絡・相談の徹底を職員に再度確認するとともに、管理職には、より効果的な連絡・伝達体制を構築するよう指示をしてまいります。そしてまた、学校現場で教育委員会の事務的な問題や、それ以外でもおかしいのではないかとということがあれば、どしどし提言してくれるよう先日の校長会議、あるいはきょう行われております教頭会議でもお願いしているところでございます。町の機構改革や職員の人事異動により人はかわります。職員には引き継ぎ事項を遵守するとともに、先例主義に陥ることなく、改めることは改め、より効率的で現場に温かい仕事をする指導をしてまいります。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 少し事実の点で、認識上にちょっとずれがあるようではありますが、例年だと10時半ころ終了していたと。例年より少し人数が多いのだという説明がありましたので、多少延びるということはあるのかなというふうに思いますけれども、その範疇を超える程度に延びたというのが、現場からの声であります。そこら辺で、少し事実認識の違いが出てきているのかなというふうに思うのですが、具体的に受け付けの方法についてもいろいろな意見が出ております。いつもだときちんと説明してくれるのに、今回、説明がなかったというようなこともあるようです。それで受診される方に戸惑いが生じたというようなことが、現場で起きたという話を聞いております。

これは個人の資質という問題よりも、教育長自身おっしゃられたけれども、いろいろな伝達システムの不備等が、そこであるのではないかとというふうに思います。総体的なことについては、また後で申し上げますけれども、そのところで事実認識がちょっと違うのだというふうになっては平行線ですから、受け付けのそういう問題もあったということをお話をしておきたいと思います。

それから、事実の問題としては、健康診断の先ほどカルテを結果票というふうに教育長おっしゃったけれども、カルテというのは事前に配られるものですから、そういうふうなことで、それが棚に置かれていた。カルテがなかなか来ないので、どうしたのかということをお話を教育委員会に問い合わせたところ、棚にあるというふうな返事があったというのは、複数の学校から報告されています。

そういうことで、棚に置かれているという状態が、本当にいいのなかという疑問が起きます。カルテ自身にも個人情報が入っていますから、まだ、検診されていませんから、検診内容は書いていないけれども、既往症とか去年のデータとかそれに書いてあるわけですから、やはり無造作に置かれていていいのかなというふうな感じがします。

そのほかの点でちょっと申し上げたいというふうに思うのですが、これは特別支援学級にかかわることで、現場から上がっている声をちょっと申し上げます。就学指導委員の任命・委嘱についてでありますけれども、この指導委員は任期が2年であります。それが切れた後、何も言ってこないで問い合わせたところ、私はもう任期が切れたのでしょうか。もう委員としては役割はないのでしょうかというようなことで問い合わせたところ、4月に任命されたことになっているという返答だったというお話です。本人が知らないうちに任命されていたということになるのではないかと、こういう状況というのはなぜ起きるのだろう。

それから、適正就学にかかわる調査でありますけれども、これは場の変更、要するに場の変更というのは交流学級、いわゆる親学級とか普通学級とされているそういう場で学習するのがいいのか、特別支援学級で学習するのがいいのか、その変更についてそれぞれ毎年やるわけですね、その変更についてやるわけです。その調査が例年より大変おくらせているというようなこともあるようであります。そういうふうに幾つか具体例が出ていますから、体制的にどこか手直しの必要があるのかなのかということでお聞きをしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 中村議員に申し上げます。今の具体例が出されたのは、健康診断とは関係ない部分もありましたので、伝達や体制のことをお聞きなのですか。教育長、さっきお答えしましたが、もう1回いきますか。

教育長。

教育長（山口長伸君） カルテの件については、教育委員会で認識しているのと大分ずれがあるようです。これについては、もう一度、再調査したいと考えております。

ただ、今の特学とあるいは場の変更については、校長が必ず言うてくるべきことなのですけれども、その辺の苦情といいますか、まずないと。

それからもう一つは、4月1日の採用というのは、変な言い方ですけれども、4月1日にそういうことをするのが本当なのですけれども、現実的には4月1日はできませんので、現実的にはできません。つまりかわったばかりですから。それで大体、今ぐらいの時期になって、また、ことしもお願いしますというような感じでやるのが毎年の例です。遅すぎると言えば遅すぎますが、任命の件については割と遅い判断をしておりますので、と言うのも、この辺についていろいろと御異議があるかと思います。正すべきところはきちっと正していきたいと考えています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） その伝達、教育委員会の体制の問題で、教育長として正すべきは正すというふうに言明されましたので、それに期待というふうに思うのですけれども、大変、今、教育現場は忙しくなっています。調査が本当に多くなっているということも聞かれます。締め切り直前になって調査用紙が来ることも最近多くなっていると、こういう現場の声もあります。

そこで体制の問題で具体的に、例えば経理の方が1年でかわるとか、そういうふうに担当が短期間でかわるというようなことが、一つの滞る原因になってないでしょうか。そういうような人事といいますか、ある程度仕事になれるという方が、なれた段階で別な部署へ行くというようなことが、滞りの一つの原因になっているのではないかというふうに推測されるのですが、それはどうでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 中村議員、ちょっと忠告で。具体的に人事のことまでは踏み込んでないと思うのですが、恐らく所管では答弁用意しているかどうか分かりません。教育長の所感を聞きたいのですか。（「そうです」の声あり）教育長、大丈夫ですか。

教育長。

教育長（山口長伸君） 学校現場は、いつの時代も忙しいです。学校現場でなくても忙しいです。と言うのも、最近は特にメールが、いろいろなメールがあらゆるところから入ってきている時代で、なかなか文章をしっかりと読む時代ではなくなっているような気がします。そういったことから、いろいろと意思疎通の図れないことが時々あります。

それから、今、中村議員御指摘の経理が1年でかわる、これはあり得ます。毎年のようにかわる学校もあります。教頭先生のいない学校、事務職員のいない学校もあるわけですから、そういう現実を知っているかと思いますが、そういった意味で忙しさを理由にしてはいけません。私はそう思います。やっぱりそれは組織ですから、それぞれの立場で、それぞれ助け合っていくのが学校ではないかというふうに考えておりますので、決して忙しさを理由にして、ミスが起こったというふうには考えていません。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 最後になりますけれども、少し私が申し上げたのとちょっと違う受け取り方されたようですので、経理がかわるというのは、教育委員会の体制の問題で申し上げたのです。一つの例ですけれども、そういうようなことで伝達等、教育委員会の体制の問題として考えていただくべきところがあるのではないかという申し上げ方をしたので、その点についてもう一度お願いします。

議長（渡邊政吉君） 教育長。

教育長（山口長伸君） 人事は、適材適所です。ですから、決してその職員がかわったからといって、確かになれない面はあるでしょう。けれども、1カ月、2カ月たって必ずできる職員になります。そこまで温かい目で見てやってください。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 中村議員。

11番（中村忠士君） 教育長、あるいは教育部長の部下を思うそういう気持ちには、敬意を表したいというふうに思うのですけれども、学校現場の状況をるる申し上げましたけれども、そういう状況もあるのだということをひとつ酌んでいただいて、教育長おっしゃられるとおり、正すべきところは正してスムーズな教育行政が行われるように期待をいたしまして、私の質問終わります。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 以上で、中村議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩をいたします。

午前10時52分 休憩

午前11時02分 再開

議長（渡邊政吉君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

次に、9番戸田博義議員、質問者席にお着きを願います。

なお、質問は、一問一答方式でございます。

9番（戸田博義君） 通告に従いまして町の防災対策について、これ1本で1時間まいりたいと思いますけれども、最近、答弁のほうがちょっと長いというような、議員の中でそういう意見もあるようでございます。ひとつ答弁は、簡潔にお願いをしたいと思います。

それでは、町の防災対策について、これから始めたいと思います。

国の地震予知委員会では、この地方はいつ起きてもおかしくない千島海溝周辺海域のマグニチュードは8以上であろうと、こういうふうに発表されてございます。500年に1度の大地震が来ると、こういうふうにはっきり言われているわけでございます。十勝沖や宮城県沖地震など、日本海溝、千島海溝周辺で発生が予想される海溝型大地震に備えるため、平成16年3月26日には、日本海、千島海溝周辺海溝型法が成立し、別海町ではそ

れに伴い、防災対策への本格的な取り組みが行われてきました。

別紙にございますけれども、各防災センターの建設、別海町防災無線、それとハザードマップの作成、これにつきましてはしっかりとしたシミュレーションのもとにつくられたものでございまして、それを見ましても私も満足しているところでございます。

平成18年10月には、まだ記憶に新しいものでございますけれども、爆弾低気圧によりまして沿岸地域は高潮による越波で、住宅の床上浸水等601件の大きな被害が出ました。今年2月27日の南米チリでは、マグニチュード8.8の巨大地震が発生、ほぼ1日たって日本の太平洋沿岸に津波が到来したわけでございます。チリから1万7,000キロ、大体時速800キロ程度で、日本の裏側から巨大地震によりまして津波が来たわけでございます。

この巨大地震で、地球の自転速度がわずかに増したと言われており、1日の長さが100万分の1秒ほど短くなり、地軸も約8センチ移動したというふうに言われてございます。この2月27日ですから、28日になりますか、こうした災害から身を守るため、町でそれぞれ避難勧告も出して警戒に当たったわけでございますけれども、避難、または港での船舶の移動にも、反省点があったというふうにお聞きしているところでございます。こういう中で、反省・検証を含めた今後の課題について、町民の生命・身体及び財産を災害から保護するため、本格的な取り組みが今求められているところでございます。

それでは、(1)の反省点と検証について。今年2月28日の避難勧告での反省点はどういうものがあったのか、お願いをいたします。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 戸田議員の御質問にお答えをいたしたいと思えます。

まず、答弁が長いという前段のお話でございましたので、短く回答をしたいと思えますが、この2月27日のチリ沿岸地震発生時の津波警報、これに対しまして町は避難勧告を行っております。

まず、このときの経過を多少説明させていただきたいと思えますが、2月28日午前9時33分に、太平洋沿岸部を中心に津波警報が発令されました。本町でも2メートル程度の津波が予想されましたので、同時刻に住民等に対し、防災行政無線によりまして、津波警報発令と避難勧告を行ったところでございます。

また、災害対策本部を設置いたしまして、情報収集や対応について確認を行い、沿岸地域においては住民の皆様や観光客、釣り人等に対して広報車、あるいは消防車両により津波警報発令及び早急な避難の呼びかけを行いながら、床丹、本別海、こちらにつきましてはまだオープンしておりませんでしたけれども、本別海の避難所、それから走古丹の避難所においては、保健師を含む3名の職員を派遣をいたしまして、また、尾岱沼地区におきましては診療所に協力を要請し、午前11時には避難態勢が確立したところでございます。

津波につきましては、午後1時47分に花咲港で第1波を観測し、午後4時30分ころには本別海潮位観測局で、また、午後4時40分ころには尾岱沼潮位観測局でも、津波と思われる波形を観測しておりました。その後も3月1日かけて潮位の変動が続いておりましたが、同3月1日午前1時7分に津波警報が解除されたことを受けまして、午前1時15分に避難勧告を解除するとともに、災害対策本部を解散したところでございます。この間、避難された方々にとりましては、長時間にわたりつらい思いもされたことと思えますが、各避難所に備蓄しておりました非常食の対応により、何とか事なきを得たと判断して

いるところでございます。

戸田議員の御質問の反省点につきましては、4点ほど反省点としてとらえております。まず1点目でございますが、2月28日10時04分ごろから行われた国道244号線の交通規制でございます。この点につきましては、尾岱沼側での規制開始箇所において、通行や帰宅を望む方々と警察官とのトラブルがあったというものでございまして、規制開始箇所や時間について改善すべきと、判断しているところでございます。

また、尾岱沼の避難所につきましては、支所の職員の対応としておりましたけれども、支所の職員のみでは、災害時の対応に支障があるということも判明をいたしましたので、本部からの人的支援の必要性も反省点の一つとなっているところでございます。

また、3点目につきましては、議員の質問にありましたように、漁船の避難状況こちらにつきましても、野付・別海両漁協合わせて約70隻が沖合へ避難したと報告を受けております。しかしながら、一部の漁船が自船の判断において、港内で待機をしていた状況もあったことを確認しております。

最後の1点でございますが、やはり避難率の問題でございます。これにつきましては、本町だけの反省点ではないと思いますが、避難勧告を行っても実際に避難された方が約3割、3割程度と低かったことでございます。幸いにして、この津波警報発生時における人的・物的被害はありませんでしたが、災害は予想を超えた部分で発生するものでありまして、改めて住民の皆さんへの津波への危機意識高揚に努めなければならないと考えているところでございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 反省点が四つほど出ましたけれども、これは別に町の責任がどうのこうのということではございません。やはり漁船のほうも、言ってみれば避難した船もいるけれども、港に係留した船もいる。それぞれの命ですから、財産ですから、判断するのが私は当たり前だと、こういうふうに思っているところでございますけれども、若干、船舶関係につきましては、前向きな姿勢で考えなければならないということがございます。

まず、どこへ避難したらいいのか、避難しないほうがいいのか、これは言ってみれば漁船の船長が判断することですけれども、なかなかその点はわかっていない。根室のほうに逃げればいいのか、巽の沖に出ればいいのか、そこら辺の問題点があるわけでございます。海岸からちょうど12キロ離れたところに巽の瀬というのがございまして、この前の1960年、昭和35年5月24日のチリ地震では、海岸から12キロ離れた巽の瀬のぶつかった波が見えた、ということでございますから、12キロ離れたところから波が見えるというのは、本当に何十メートルの津波であったろうと。もちろん野付湾は、水は一滴もなくなりました。大変な津波でございましたけれども、被害はそれほどなかったわけでございます。

こうした船舶の避難につきましては、今後の課題として発生時間や規模により違々と、私は思っているところでございます。こうした問題を解決するため、その道の専門家の意見を聞くための研修会と漁船の避難ルールの作成、津波による漁業者の人命と財産を守ることが防災の役割でないでしょうか、これらについて町として指導をどのように考えているか。ある市町村では、平成18年から、それぞれ避難ルールをつくって、どこの地域は何メートルの時はどこへ逃げると、こういうことでずっと続けて訓練もやっている市と漁

協もでございます。実際に、その書類も私、送ってもらいましたけれども、なかなか立派なものでございまして、本当に津波の恐ろしさを知っている、知らされたというふうに思っているところでございます。この件について、どのように考えるか、お答えをお願いいたします。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） この4点の反省点につきましては、ある程度、改善されている部分もあります。ただいま、船舶の避難につきましては、町の防災計画の中で人的な部分かなりウエートを占めておりまして、船舶の部分につきましては、今後、両漁協と協議をしながら対応策等、検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） それでは、の道内26市町の避難率は、全体で6.5%と発表されてございます。別海町は29.2%でございました。その後、町で調査をしたということをお聞きしてございますけれども、その結果についてお願いをいたします。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたします。

本町の津波避難勧告を行いました対象者につきましては、平成22年1月31日現在で347世帯、1,310人となっております。避難人数につきましては、最大時こちらについては午後4時になりますけれども、午後4時時点で404名となっております、避難率は30.8%ということで、町のほうで把握をしたところでございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 次のでございますけれども、各町内会が防災組織をそれぞれ自主防災組織という形でつくっているわけですが、当日、どのような動きをしたのかお答えを願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 自主防災組織の動きということでございますが、自主防災組織の皆様方につきましては、津波警報と避難勧告発令後の9時40分、走古丹・床丹の自主防災組織の会長さんへ、地域防災センターの開設・オープンを依頼するとともに、10時には本別海の、まだこの施設、本格的なオープンしておりませんでしたけれども、こちらの防災センターを避難施設として使用する準備、あるいは本別海の自主防災組織の会長さんへ、この準備につきましては職員がこちらから向かっております。それとあわせて、本別海の自主防災組織の会長さんのところへ、オープンに向けての連絡を入れたところでございます。

また、尾岱沼地区につきましては、10時10分に支所長に連絡を入れ、避難施設の開設依頼を行いまして、それぞれの地域の自主防災組織の皆様方へ、連絡と協力によりながら、午後11時には避難場所開設等の体制が確立されたところでございます。

このほか避難者の方々に対する昼食と夕食の2回にわたる食事の用意、あるいは避難者の方々のお世話等につきましても協力をしていただいたところでございまして、改めて感謝を申し上げたいと思っているところでございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 今、部長のほうから言われましたけれども、私も尾岱沼支所のほうに1日いっぱいいたわけでございますけれども、自主防災組織の連合町内会の会長も1日いっぱい支所に詰めていたと。そしていろいろ電話をしたり何かしまして、ある程度、自主防災組織も動いたのかなと、このように思います。まだまだ言ってみれば、今、テレビで盛んにやっておりますけれども、来る前のひとり暮らしの人、また歩けない人、寝たきりの人、そういう人方を今後どうしていくのかというのが、大きな問題点として浮き上がってくるものと思われませんが、その件につきましては答弁は要りません。

そこで、この三つの中で総合してお聞きしたいことは、町は避難指示・勧告についてどのような認識をしているのか、これは町民にもなかなかわかりにくいことではないかなというふうに思っております。私も何回も聞かれたことあるのですけれども、勉強不足か明快な答えは出なかったと、こういうこともございます。これにつきまして町はどんな認識をしているのか、お答えを願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 避難勧告と避難指示の関係でございますが、別海町地域防災計画の中の避難救出計画として、町長は、災害体制基本法、あるいは水防法の規定に基づきながら、災害の危険がある場合に必要と認める地域の居住者・滞在者・その他の者に対し、避難のための立ち退き勧告、あるいは指示をし、立ち退き先を指示するとともに、避難所の開設、被災者の収容等を行い、速やかに知事に報告することとしております。

そして、この避難勧告でございますが、避難勧告につきましては、その地域の居住者等を拘束するものではないが、居住者等がその勧告を尊重することを期待して、避難のための立ち退きを進め、または促す行為をいうということで規定をしております。また、避難指示につきましては、勧告よりも拘束力が強く、被害の危険が目前に切迫している場合に発せられるということで区分をしているところでございます。

もう少し簡単に言いますと、避難勧告は居住者等に立ち退きを進めまたは促す行為、促すための行為でございます。避難を強制するものではありません。避難指示は、居住者等を立ち退かせるための拘束力を伴う避難勧告よりも拘束力が強くなりますが、指示に従わなかった方に対して、直接強制までは行われません。このような行為となります。

この避難勧告と指示につきましては、強い地震や大火災、河川の洪水などによる被害が発生するおそれがある場合に、町長の判断により行われるところでございます。しかしながら、特に津波につきましては、対応策計画の中でその基準を明確にしておきまして、避難に当たっては町長は時期を失しないように、速やかに避難の勧告または指示を行うものとしておきまして、災害時要援護者を優先的に避難させるとともに、危険区域内の全住民を避難させるものとするとしております。

そして、気象庁による津波警報、こちらについては予想される津波の高さが1メートル、あるいは2メートル、これらが発令された場合には避難勧告、そして大津波警報こちら予想される津波の高さが3メートル以上になりますが、こちらが発令された場合には、直ちに避難勧告または避難指示を行うこととしておきましております。

災害は忘れたころにやってくると言いますし、いつも自分たちの予想を超えたところで発生しております。このぐらいなら大丈夫だろうとか、あるいは自分でこれは大丈夫だというような自己判断はしないで、避難勧告、あるいは指示があった場合には、ぜひ避難所への避難をお願いしたいと考えております。

このような場合には、当然、自主防災組織の皆さん方と協力をし合って、確認し合いな

がら、指定の避難場所へ避難をお願い申し上げたいと思いますし、町といたしましてもこれから広報等を通じながら、防災対策への積極的なPRに努めたいと考えているところでございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 総体的に今言ったことを短く言えば、避難指示・勧告がともに災害対策基本法に基づきまして、市町村長が判断するが強制力はないのだと、こういう内容だったと思います。今、聞きまして、その内容そのものは御理解をしました。

次に移りたいと思います。

(2)の防災計画でございますけれども、昔から言われていることわざに、地震雷火事親父というのがございます。私、釧路の气象台に、このことわざはもちろん地震が火事とかすべてのものを起こす、津波もそうですけれども、次に雷、その次は火事だと、この親父については、ちょっと現代風に合わないなということを思って釧路の气象台に聞いてみましたら、その道の方は、昔は親父だったけれども、今は違うのではないかなというようなそういう見解をしておりました。そして札幌の气象台にも、その道の人に電話でお聞きしましたら、いや、親父というのは地方によっては台風、低気圧のこと、来ると親父が来たぞと、こういう地方もあるそうで、その地方地方でも違いがあるというふうに言ってございました。それでどっちの言っていることが本当かなというようなことで、ことわざ辞典を2冊ほど買って調べました。

そうしますと、地震雷火事親父、人々が恐れる順番に挙列した言葉です。近ごろ權威のなくなったおやじ族は、もはや資格喪失かというふうに辞典に書いてございました。そうした中、防災計画の中にある第3節、日本海溝・千島海溝周辺、第8に書かれているものでございますけれども、教育でございます。その実態、職員に対する教育はどうなっているのか、お答えを願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 職員に対する防災教育でございますが、議員、今、お話のとおり、別海町地域防災計画の第6章第3節の「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進計画」、この中で町職員に対する教育について触れております。

現在は、各課ごとに防災計画を配付し、全職員に対して災害時における行動や分担する業務、職員としての心構え等について、災害時における職員初動マニュアルこちらを作成しまして、全職員に配付をしながら災害対応体制をとっているところでございますが、地震災害応急対策業務に従事する職員につきましては、関係機関が主催する地震防災シンポジウム、あるいは津波講習会等に参加するなど、また、全国市町村アカデミーの主催する防災と危機管理についての講習会等もございますので、こちらに参加等も含め、このような講習会等を通じながら自治体における職員の災害対応力、あるいは危機対応力の養成に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 災害はいつ起きるか、今、起きるかもわかりませんが、やはり職員として防災の知識は最低限、学んでおかなければならないのではないかなと。今の答弁では、それぞれの部署でやっているということでございますので、いつ来るかわからない災害に備えて今後も続けていっていただきたいと、このように思います。

次に、防災計画の 児童・生徒等に対する教育でございますけれども、津波による日本最大の被害は 1896 年、明治ですけれども、三陸地震で 38メートルの津波で、死者 2万2,000人というのが最高でございます。155年前の 1854年、安政元年には安政の南海地震、現在の和歌山県の広川町でございますけれども、大津波で 1人の老人が多くの住民を救った物語がございます。濱口梧陵という人でございますけれども、「稲むらの火」ということで有名でございます。

この濱口梧陵が自分の庭から浜を見渡すと、風とは反対に波が陸から沖へ沖へと動き、広い砂場や黒い岩底があらわれてきたと。きっと津波が襲って来るに違いないと、収穫した大切な稲むらと自分の田のすべての稲むらに火をつけ、多くの村人を救ったという感動の実物語でございます。この物語は、防災担当の関係者は、それぞれ知っている話でございますので、それ以上話はしませんが、この物語は言ってみれば英訳されてアメリカでも副読本の教材として、広く現在も使用されているというふうにお聞きいたしております。昭和 22 年までの国定教科書、尋常小学校 5 年生用として、日本では使用されておりました。

濱口梧陵は、ヤマサ醤油の 7 代目当主でございまして、初代の郵政大臣として活躍された方でございます。一例を申し上げましたが、災害の教訓を生かすための学校防災教育のあり方についてお聞きいたします。

議長（渡邊政吉君） 教育部長。

教育部長（根本幸三君） 児童・生徒などに対する教育に関してお答えをいたします。

各学校では、年度当初に学校経営案を作成しております。その中に防災計画として、火事・地震の場合の避難の指導や避難訓練等を明記されております。また、火災・地震・風水害・自転車通学を含めた安全指導計画も確定されており、各学校とも計画に沿って訓練など行われております。

なお、生涯学習課が窓口となっておりますが、役場各部署の職員が、それぞれの専門分野を希望する場所で講義をする宅配講座という事業が行われております。先ほど言われました「稲むらの火」のことも含め、総務部長が言いました専門的な講義等、講習等を受けた職員の防災関係の講座を活用することを大いに推奨したいというふう考えております。

加えまして、学校保健法が 60 年ぶりに大幅に改正されました。平成 21 年 4 月 1 日から、学校保健安全法として施行されています。今回の改正は、学校における児童・生徒の保健管理強化とともに、安全確保が一層図られるよう学校における安全管理等に関し、必要な事項を定めるものであります。また、学校安全の取り組みは、新学習指導要領においても安全に関する指導として、新たに明記されているところであります。

今、学校現場では、以上ような法律改正を踏まえまして、学校安全計画の見直し作業に着手しております。安全指導や安全点検等を示した総合的な学校安全計画の策定、それから危険等発生時の対処要領の作成、事故などにより危害を受けた児童・生徒への心のケア、保護者と関係機関との連携など法改正の趣旨を踏まえ、学校安全体制の充実・強化に一層取り組む考えであります。

さらに、具体的な指導方法として、児童・生徒が安全に関する情報を正しく判断して、危険の予測や危機回避の能力を身につけることができるようにする観点からも発達段階に応じて、学校の教育活動全体で取り組むことが重要というふう考えております。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9 番（戸田博義君） 災害については、やはり学校教育というのは、小さいころから災害に対する教育を受けていないと、大人になっても勉強だけでればいいという話にはならない。世の中、渡っていくのには谷あり山あり川ありという人生が普通の人生でございますので、この後も学校教育災害防災について、教育委員会としても随時指導していくような体制がとられればいいなというふうに思っております。

(3)のカメラによる監視体制方式を取り入れる考えはないのかということでございまして、町は潮位計はあるものの、現在カメラはありません。津波というのは、何秒の差で助かるか、命を奪われるかが決まるわけでございます。NHKの画像による各地のデータもNHKでは流しておりますけれども、やはり港・海岸にカメラの設置が必要でないかなと。やはり目で見る、説得力のある防災というのは、そういうことでないかなというふうに思いますので、お答えをお願いいたします。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

戸田議員指摘のとおり、現在、本別海と尾岱沼には潮位計を設置をしながら、潮位の監視を行っているところでございます。また、花咲港と根室港における潮位についても気象庁の潮位観測情報によりまして、5分置きのデータがいつでも確認できる状況にもございます。さきの避難勧告時につきましても、花咲港で第1波を観測いたしまして、午後4時30分ころには本別海潮位観測局で、また、午後4時40分ころには尾岱沼潮位観測局でも、津波と思われる波形を潮位計により観測をいたしております。

現在、野付半島ネーチャーセンターには、北方領土を望むライブカメラが設置をされております。半島の外海の様子は確認することができますが、滑らかな動画とはなっておりません。設置防災用監視カメラについては、確かにリアルタイムでの監視体制の構築によりまして、的確な対応が可能となると思いますが、本別海地区についてはインターネットの高速通信環境が整っておらないところであります。無線通信での整備が必要となると思われます。また、尾岱沼地区では通信速度がある程度見込まれ、有線環境での設置が可能でございますが、架線等の工事が必要となります。

このほか現在、町内には防災用として、北海道開発局が設置している国道の状況監視カメラが、海岸線に7カ所設置されておまして、各自治体においても閲覧できる環境が整えられてきております。また、尾岱沼漁港及び別海漁港内へのカメラ設置と開発局の防災WANのシステム活用が可能であれば、既設の潮位計と合わせた活用によりまして、的確な防災対策が図られるものと考えておりますので、今後、関係機関と協議を進めていくとともに、現在、潮位計の更新時には専用端末の高性能化も含めた検討をしてみたい、そのように考えているところでございます。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9 番（戸田博義君） 答弁を聞いておりますと、多少お金はかかるようでございますけれども、命の問題でございますので、今、答弁のあったように、やはり説得力のあるような災害防止を前向きに進めていただきたいと、このようにお願いも申し上げておきます。

次に入ります。

(4)の津波、低気圧等による越波の危険地域の今後の対策についてでございます。

その中で野付半島地先につきましては、前の一般質問でやはり危険地域である道路の名前もない、この道路を何とかしていただきたいという一般質問もしたところ、今現在、いろいろとやっているようでございますので、この件についてはこれで終わりにして、床丹

の地域も危険な地区になっているわけでございますけれども、近年、温暖化、それと地盤沈下の影響もありまして、低気圧等による越波が発生する状況下にあります。大変心配されている地域でもあります。国道244号線の山側には広大な土地があります。道路と水がない状況であり、多くの人が新しい道路建設を望んでいる状況下にあります。私も外3名と、床丹の方と避難所から歩きました。草の深さが腰以上でございまして、大変暑い日でございましたけれども、500メートルくらい歩いたら、私よりかともでもない若い人でございますけれども、もう暑くて歩けないと。私は別段、結構暑い中パークとかやっておりますので、足腰鍛えておりますので、最後まで歩こうやということで床丹のお墓のところまで歩きました。1キロちょっと歩いたかなというふうに思いますけれども、さすがうちに帰ってきてダウンしたわけでございます。

こんな状況下にありますと、あの下の方は普通の低気圧、越波によって屋根のトタン、倉庫、車庫、車、あらゆるものが塩害で普通の半分しかもたないと、財産の大きな損失でございます。こんな中で、やはり多くの方が上のほうに移したいと、このような希望を持っているところでございますので、町の見解をお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

本町におきましては、通常、民間の宅地造成これにかかわるものや個人への道路につきましては、その土地の所有者等が整備をし、維持管理もそれぞれなされている状況でございます。また、町が地権者から寄附を受ける場合、町が定めた規格に沿って整備されていることなどを条件といたしております。御質問の道路建設でございますが、さきに申し上げましたことや、国道山側の場所には道路用地もないことから、現在のところ町としての計画はない状況でございます。

床丹地区におきましては、地域防災センターの建設がされました。これは平成20年でございます。現在は老朽化に伴う護岸工事の実施、これが13年度から23年度の中で実施されております。さらには漁港のかさ上げ、導流堤の整備計画これが23年度から開始される、そのようなことでありますことから、懸念されている防災対策、これにつきましてはこのようなことがなされていきますと、かなり改善されるのではないかと私ども考えているところでもございます。

しかしながら、さらなる改修をいたしましても、地盤沈下による不安から多くの方が高台に住宅の移転を今後望まれるのであれば、今まで個人で整備している道路との平等性を考慮しながら検討してまいりたい、そのように考えているところでもございます。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） この後、床丹町内会の会長名で要望書も提出されるものと思えますけれども、ひとつ今言われたように前向きな、先を見通した防災というのが大事でございます。ぜひとも多くの皆さんの御意見に沿うような形でどうすればいいのか、その辺も関係者と相談をいたしたいというふうに思っているところでございます。

次に、5番目の尾岱沼地区の問題でございます。

災害の専門家によりますと、大変危険な町づくりと言われております。横の道路は国道244号線、1本のみ、縦の道路は全線行きどまりとなっております。1次、2次災害防止のため、山側道道に抜ける縦の道路が必要であると考えます。これにつきましては、町のほうでもある程度の3分の1くらいが整備されたのかなと思いますけれども、やはり

500年に1回のマグニチュード8以上の地震がいつ来てもおかしくないと言われている今日、早急に整備する必要があると、そういうふうに思われます。お答えを願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 建設水道部長。

建設水道部長（田中忠敏君） 御質問にお答えをしたいと思います。

尾岱沼市街南北に縦貫しております国道244号、これの山の手側、西側になりますけれども、これを生活圏としている潮見町、これにつきましては国道に接続する道路の道幅が狭くて、行きどまりということになっていることから、町は防災・交通安全・利便性の観点から、平成3年度に道道尾岱沼港春別停車場線、固有名詞を言ってあれなのですけれども、護国寺の西側から国道九虫橋南側までの間の約2キロの道路整備のための基本計画を作成して、事業に着手したところでございます。

平成11年度までに、戸田議員が今おっしゃられていましたとおり、国道から東公民館西側までの間につきましては整備を完了しておりますけれども、道道に接続する約1キロの区間につきましては、道路の敷地がない状況で民地を取得しなければならないことがございまして、整備がおくれている状況でございます。

本道路の整備につきましては、事業要件などさまざまな課題はありますけれども、用地取得が最重点課題であるというふうに認識しておりまして、予定道路敷地の地権者や地域の皆様の御理解と御協力をいただきながら、整備を進めてまいりたいと考えております。

議員におかれましても、御協力をいただきますようよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 戸田議員。

9番（戸田博義君） 国道24号線の山側のほうは、昔の話するとおかしいですけども、家というのは何件もなかったということでございますけれども、今は国道の上のほうで戸数が2倍くらいになりました。反対になっているのですね、下の人がかんたんかん上に移っていったという状況でございますので、今、言われたように我々地元としても役場と協力し合いながら、これからやっていかなければならないのだなというふうに思いました。

いずれにいたしましても、災害が起きて被害が出た場合は、町がどこまで防災について力を入れて考えてやってきたのかということが問われることになると思います。人命・財産の保全のため、明快な前向きのきょうは回答をいただいたなというふうに私なりに思っているところでございます。その前向きの回答に御礼を申し上げまして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

議長（渡邊政吉君） 以上で、戸田博義議員の一般質問を終わります。

ここで、午後1時まで休憩をいたします。

午前11時56分 休憩

午後 0時56分 再開

議長（渡邊政吉君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

なお、会議に入ります前に、議場が少し暑くなってきたようですので、上着を取る旨の申し入れがありましたので、許可をいたします。

それでは、次に、12番佐藤初雄議員、質問者席にお着きを願います。

質問は、一問一答方式でございます。

12番（佐藤初雄君） それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきたいと思ひます。

まず大きな1点目といたしまして、別海町自治基本条例（仮称）の制定に關してと題しまして質問をさせていただきたいと思ひます。

平成12年度にスタートした地方分権一括法に伴い、国から地方への財源や権限の移譲が進められております。自治体の裁量や自由度が増しますが、反面、自己責任・自己決定が、今まで以上に求められております。別海町においても第6次の別海町総合計画の中にも、町民と行政がそれぞれの役割と責任を持って協働のまちづくりを目指すということが提唱されております。自治基本条例制定後は情報共有のもと、町民参加と協働のまちづくりが一層強化、町の最高規範に位置づけられ、守り育てていくことが大切であります。こうした状況のもと、町民とともに条例を育てていくための町長の見解をお伺いしたいと思ひます。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 佐藤議員の御質問にお答えを申し上げます。

町におきましては、平成20年度に第6次総合計画「ともにつくるべつかい創造プラン～笑顔あふれる豊かさ実感のまちべつかい」を策定をいたしまして、平成21年度にスタートをいたし、2年目となっております。この計画につきましては、多くの町民の皆様方の御意見をもとに策定したものでございますが、自治の仕組みを町民の皆さんが主役となって実現することといたしております。

また、協働と透明性のある町政を推進するためにも、行政執行の基本として町民の視点に立った自治基本条例の制定は欠かせないものであり、このたび条例づくりを進めるわけでございますが、条例の中には「つくりばなしとしない」ための検討委員会として、自治推進委員会の設置でありますとか、見直しという条項を盛り込みながら、行政・議会、そして町民の皆様方と一緒に検討し、常に見直しなどを行いながら、この条例をはぐくみ・発展させてまいりたい、そのように考えているところであります。

来年4月からの施行に向けまして、条例制定に向けた本格的な作業に入ったわけでございますが、議員各位並びに町民の皆様方の御理解と御協力をいただきながら、別海町にふさわしい自治基本条例ができ上がることを期待をいたしているところであります。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） ただいま町長の力強い決意が述べられました。私もそのとおりだと思います。事務方といたしまして、スケジュールの流れというのが、全員協議会なりも説明がございました。年度内成立というようなことを目指してやられておるようでございまして、所内の職員さん方を集めた研究会、プロジェクトチームですか、できまして、あるいは公募がされましたし、あるいは各種団体の推薦をいただいた委員の中で構成して進めるということでございますけれども、過般、説明紹介がございましたけれども、その中で公募の人数、当初予定したより3名ぐらいで、非常に少ないという報告がされました。これには二通りのとらえ方があるのかなと思ひます。非常に責任の重たい、いわば町の最高規範であるというようなことです。この中の委員、公募して受けるのが、責任の重大さというようなことで少なかったのか、あるいは逆に今の段階で特別な関心がなくて参加する、公募する方が少なかったのかなと。どちらかわかりませんが、いずれにしても両方が考えておかななくてはならないのかなと。こういった中で、やはり今後、地域懇談会

等々、あるいは検討委員会等進めまして、説明会がなされ、議会で承認というような形で進むスケジュールになっております。

そういった中で、もし事務的にも含めまして、何かそこら辺につきまして考えがあればあれですけれども、そういったことも含めまして、何といたっても町民の意識改革を含めて、何とかつくって魂入らずにはならないと思いますけれども、そういうことが懸念されるような気がしますので、そこら辺も十分今後検討しながら進めていただければ。もちろん議会も含めて、今後、両にらみで進むわけですけれども、そういったことをやっていただきたいなと思うのです。これについて何かあればあれですけれども、なければそういう希望というか、考え方を述べて、終わらせていただきたいなと思います。ありますればあれですけれども。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをしたいと思います。

議員、今、お話がありましたように、実際に、この委員を公募したところ、3名の応募しかありませんでした。ただ、町内の各種団体36名程度予定しておりますけれども、こちらのほうは各団体のほうから、それぞれ推薦をいただいております、これらの方々が集まっていた中で、検討が進められていくのではないかとということで考えております。

また、来年の一応基本的には3月までということにしておりますけれども、いろいろな検討の中で、これから特に検討委員会を中心にいろいろ作業が進められていきますけれども、当然、地域の説明会、あるいはパブリックコメントを実施しながら、本当の意味での条例づくりを進めていくことになろうかと思っております。検討の時間が短い、あるいはそういう話が例えば検討委員会の中から要請があった場合には、今後のスケジュール等の見直し等も考えながら、できれば来年の3月までには策定したいということで考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） わかりました。そういうことで、一日も早くすばらしい町づくりのたたき台になれるような成案ができることを希望して、この件について終わらせていただきたいと思います。

2点目に入りたいと思います。

2点目につきましては、ドクターヘリによる救急医療体制の現状と題しまして質問させていただきます。

ドクターヘリによる救急医療体制が構築され、救急医療の迅速な対応による搬出に人命救助体制の整備が一段と進んでおり、特に過疎地における交通手段の中で大きく貢献されております。

また昨今は、道内に空港をネットワーク化し、患者を救急搬送用のドクタージェットが丘珠を拠点に研究運航されるなど、人命尊重救急医療体制が着々と前進しております。こうした状況下、一つ目といたしまして、昨年10月より運航が開始され、現在までの出勤、あるいは要請回数と天候不順、またはヘリが現場に来まして必要ない状況があったのか、またあった場合の回数等、開始から現在までの運航状況についてお知らせをいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 福祉部長。

福祉部長（田村秀男君） 佐藤議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり、ドクターヘリの事業につきましては、昨年、平成21年の10月から、道内で3機目のヘリが導入されました。釧路・根室圏域といいますか、ここに配備されて10月5日から運航を開始しております。

ことし8月までの出動回数でございますけれども、44件でございます。そのうち実際ヘリで出動来まして、現場に着きまして、釧路まで運んだというのが35回でございます。残り9回につきましては、議員おっしゃるとおり、搭乗の医師の判断により救急車の搬送が相当とか、それから様態が回復しまして、ヘリでの搬送は必要ないという判断のものの回数が9回でございます。それから、要請しましたけれども、天候不順などで来られないとかそういう回数でございますけれども、9件でございます。そのうち悪天候によりますものが7回、ヘリにつきましては有視界飛行が大原則でございますので、霧だとかそういうことについては対応できないので、そういうものが7回。それから、他の事案といいますか、ほかの市町村でドクターヘリを使用していたと、そのため要請があったけれども、できなかったという件数が1回でございます。それから、待機時間収容後と言いますけれども、ドクターヘリは朝の8時半から日没までが運航の基準となっております。それでこの時間外ということで、その回数が1回でございます。要請につきましては、救急隊員だとか医師の指示によりまして、別海消防署が要請することになってございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） わかりました。

それでは、2番目に移らせていただきたいと思います。

ドクターヘリの運航につきまして、当然、お金がかかるわけございまして、年間の維持管理費というのですか、あるいは総体金額、それ合わせまして各市町村の案分というか、負担方法があるかと思っておりますけれども、別海町分も含めまして、全体と合わせましてお知らせをいただければと思います。

議長（渡邊政吉君） 福祉部長。

福祉部長（田村秀男君） お答えいたします。

釧路・根室管内の13の市町村で、このドクターヘリの事業を運航してございます。それで緊急医療確保負担金としまして、釧路医師会に5,000万円を負担しております。その割合でございますけれども、均等割が20%でございます。そのほかは人口割だとか救急車による搬送の割合ということで、各市町案分をしてございます。ちなみに釧路市が50.11%を負担している状況でございます。別海町は4.0%ございまして、金額にしますと201万5,000円となっている状況でございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） ドクターヘリ、ヘリコプターですから、空飛ぶ病院みたいなものですから、なかなか相当なお金がかかるなと思っております。当然、単独では持てないわけで、割り勘というか、全体で持って利益を共有すると、大変結構なことなのですけれども、3番目というようなことで、1回の運航に対する経費というか、金額と使用者の受益者負担、どんなふうになっているのか、その辺もわかりますればお知らせをいただきたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 福祉部長。

福祉部長（田村秀男君） 1回の運航でございますけれども、実際の運航の経費というのはちょっと把握できておりませんけれども、ドクターヘリを運航会社に委託してございます。その委託会社の試算でございますけれども、1時間当たり64万円ほどかかるそうでございます。パイロットの人件費だとか、それから無線の使用料、あるいは整備料、その他たくさんございますけれども、そういうことで基準としまして、1時間当たり64万円ということでございます。

それから、要請だとか使用についてはお金はかかりません。ただし、搬送中医療行為が行われますので、搬送中の医療行為に関しましては、各種保険の割合によりまして、医療保険制度に基づく個人の負担が生じてまいります。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） わかりました。

それでは4番目というか、町内には13カ所のドクターヘリの離着場というのですか、あるということ聞いておりますが、場所によっては同じ条件でないということなことも伺いしております、実際に地域でもあったのですけれども、一つ目といたしましては、障害物というか電線とか何かあったらヘリがおりられない、狭いところでおりられないと。

それから、あと牧草地や何かなら大分違うのですけれども、グラウンドなんかにあるとなると、当然、グラウンドですから砂ほこり立つので、消防車が事前に連絡を受けて水まきをしてからでないと、おりられないというようなことで、その辺も常駐していればいいのですけれども、していないところではなかなか大変だと。

それから、冬期間地域にもあったのですけれども、除雪がしていないというふうなことでなりますれば、今度、除雪をしてからというようなことで場所の変更なんかはできないのかなというようなことで、実態等心配されるというか、実際にあったことも含めまして、その辺にもつきましてどのように今後対応できるのかしていくのか、もしありますればお答えをいただければ幸いかなと、こう思います。

議長（渡邊政吉君） 福祉部長。

福祉部長（田村秀男君） お答えします。

町内には13カ所のヘリポートといいますか、着陸場を確保しております。議員、心配なさるとおり、離着陸には障害物がないほうが安全でございます。それで選定基準というのを決めて、ヘリポートには選定基準に従う、クリアしたものでないとそこは指定しないことになっておりますので、その心配ですか、これはないかと思います。ちなみに35メートル四方の広さがあるとか、それから着陸場はできるだけ平たんな場所、それから35メートルの端々には、15メートル以上の高さの支障物がないとか、そういう選定基準を設けて指定しておりますので、大丈夫かなというふうに思っております。

それから、グラウンドの砂ほこりです。やっぱり機械といいますか、精密機械といいますか、そういうことでほこりには弱いそうでございます。それで13カ所のうちにグラウンドといいますか、砂ほこりが立つような場所がございます。アスファルトは7カ所ぐらい知っていますけれども、6カ所が砂ほこりが立つというヘリポートでございます。そこには、消防職員、あるいは分団の職員も含めて、連絡が入ったらすぐ、乾いている状況でありましたら、散水をしてほこり対策はしているということでございます。

それから、3番目の冬期間の除雪ということですが、冬期間は13のヘリポート

全部使うことにはなってございません。それで議員の心配しているとおりの、除雪も常時しておかなければなりませんので、冬期間につきましては町内4カ所、別海消防署の前、西春別消防署の支署前、尾岱沼の地域センター駐車場前、中西別中学校の駐車場とこの四つを指定して、ここは常時、離着陸できるような除雪体制をとっております。これには消防の職員だとか、そういう支援をいただいておりますので御安心ください。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 今、部長が申されましたように、私の心配することも大分少なくなったのかなと思います。口はばかりですけれども、過去の総理大臣の中で、人の命は地球より重たいと言われた方もおります。まさにそのとおりでございまして、救急医療に従事している方々初め、日ごろの行政含めたそれぞれの方々に敬意と感謝を申し上げるとともに、こういったことのできのうだったかも、別海でドクターヘリが飛んだようでございます。幸いに命には、なかったというようなことで大変安心しておるわけですが、今後ともひとつこれらについて御尽力いただきたいと思います。

次に移らせてもらいます。

中山間直接支払交付金事業についてと題しまして、質問をさせていただきたいと思います。

本事業は、平成12年度に制度発足以来2期を終了し、検証のもと、本年度より新たに第3期対策として継続されることになりました。本町においては、過去10年間で約90億円の事業費が投入、集落活動、あるいは集団的かつ持続的可能な体制整備、あるいは農業生産の継続に向けた集落活動体制整備への取り組み等、一層の内容充実の強化が求められております。

そこで一つといたしまして、本事業の概要について、事業メニュー、あるいは金額等、特に新規事業メニューと金額等をお知らせをいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 中山間事業について、お答えいたしたいと思います。

第3期が今年度から始まったということで、この事業につきましては22年7月13日付で、中山間事業の別海町の基本方針を策定し、この方針に基づき集落協定を結び、本年度から5年間、事業を実施してまいるところでございますけれども、現在、こうした策定したもののについては、道に対して承認申請を行っております。そういったことで、まだ承認はおりておりませんが、そういう内容を説明させていただきたいと思います。

この協定に基づく共同取り組みの活動メニューにつきましては、大きく四つに分かれています。

まず一つ目は、集落の管理体制の整備ということで、これは集落等ができております。サブ集落等ができておりますが、そういった人方への報酬等を行うものです。

それと二つ目は、農業生産活動として取り組む事項ということで、農用地の管理、あるいは多面的機能を増進する活動。

それと三つ目は、農業生産活動等体制整備として取り組むべき活動ということで、農用地保全マップの作成だとか、生産性収益の向上に関する取り組み、あるいは担い手育成に関することということでございます。

四つ目は、その他といたしまして、これは事務経費でございます。

そういったものの四つのメニューで行うような計画を立てております。予算総額につき

ましては、9億4,500万円というふうな試算になっております。

また、新規メニューということでございますけれども、農用地の管理の中で農地情報GISシステム導入に係る事業費、これに対して200万円程度。それから、家畜防疫に係る、これは別海町家畜自衛防疫組合に対する助成事業として考えておりますけれども、まず一つには、本年度も口蹄疫で非常に震撼された事件もありますので、町内に家畜防疫車等の導入を図っていききたいと。大分、家畜防疫車も古くなってきておりますので、そういった面で補完する意味で、導入をしていききたいというふうに考えています。また、それと合わせて洗浄機の導入、これも5台程度を計画しております。それから、家畜防疫対策助成ということで、今、大変ななっていますBVD対策やほかのワクチン代、そういったものに助成しようと。それから、カラスの有害駆除対策事業、こういったことも今までどおり進めていこうということで、これに対して約6,160万円ぐらいの事業費を今現在、見込んでいるところでございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 相当なお金なので、選択と集中で有効活用を図るということで、新規メニューが導入されたなど、こう思っております。

そこで2番目に入らせていただきますが、事業が今まで30・70だったのですけれども、3期目は5%、町も25で、サブ集落が75というようにお聞きしております。そういったことで、その変更理由になるかわかりませんから、その辺のとらえ方でこういうふうになったのかなと思います。そこら辺の主眼としたものがありますれば、御報告いただければ幸いです。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたしたいと思います。

この事業配分についてですけれども、2期対策である全町集落で30%の配分、配付というので配分をしておりましたけれども、3期対策では全町集落会議の中から、現在、濃厚飼料、輸入飼料の高騰ということもあって高どまりになっている。あるいは国の土地基盤整備事業費の大幅な削減など、こういった背景もありまして、やはりこれからは自給飼料の向上対策が、一番大事でなかろうかというような認識のもと、今回そういった草地の生産性の向上対策、簡易更新だとかいろいろありますけれども、そういった面の予算配分をすべきというようなそういう会議の中の判断がございまして、3期対策につきましては全町集落を25%の配分と決定したところでございます。

全町集落の配分が25%となったことにより、取り組む事業内容が縮小されるだとか、あるいは交付要件に満たないなんていうような、支障もないということもあります。そういったことからやっぱり将来投資として、生産性の維持・向上というのが非常に重要であると、そういったことでサブ集落の取り組み活動への配分としたところでございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 今、部長から説明あったように、5%サブ集落にオンされるということは、生産基盤の確立というか、自給飼料の向上を目指してサブ集落にウエートを置くのだと、こういうことでございました。わかりました。

それでは(3)ですけれども、本事業のメニュー内容等含めまして、ここは大変大切な中山間地域等の直接支払いにつきまして、3期対策につきましてもメニューを含めました町

長の御見解をお伺いいたしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

町長の見解ということでございますが、中山間直接支払交付金事業につきましては、我々も要請活動を行っている中で中山間事業の草地地帯、これに対する３期対策におきましては、大変厳しいとの認識があったところでございますが、昨年の政権交代もありまして、別海町においては引き続き条件不利地域として、この制度の適用を受けることに、まず安堵してきたところでもございます。

一方、今年度の土地基盤整備事業費の落ち込みが極めて大きく、集落協定の中で共同取組活動に交付される交付金につきましては、集落協定に位置づけることで使途が問われないことから、集落の皆さんの自由な発想のもとで知恵を結集されて、実りある事業活動への対応をぜひお願いをするところでもございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

１２番（佐藤初雄君） １期、２期目の対策を含めまして、検証いたしまして、３期目にそれぞれの地元の要望というか、この取り組む事業に対する要望というようなことでして、３期対策が出発するわけなので、こういう御時世なのでさらなる有効活用含めまして、事業のさらなる発展を期待したいなと思います。

それでは、４番目に移らせていただきたいと思います。

４番目、快適な地域づくりを目指して、家畜ふん尿臭気対策への取り組みについてと題しまして質問をさせていただきたいと思います。

酪農畜産が本町の基幹産業の中で、家畜ふん尿の圃場散布時に発生する臭気が、解決しなければならない大きな課題となっております。種々検討・実施をされておりますが、これにつきましてはなかなか大変なものがあります。こうした中、一つといたしまして、臭気対策協議会なるものが設置されていれば、その構成メンバーと、あわせまして活動内容を御報告いただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 臭気対策についてでございますけれども、非常に臭気の問題については、毎年、その時期になると、いろいろな苦情も最近では寄せられるようになってきております。また、ことしは特に猛暑ということもあって、窓をあけたり、あるいはそういった涼しい風を通そうというようなこともあって、非常に、においも多かったのかなということで苦情も来ているところでもあります。

そういった中でございますけれども、臭気対策協議会これを設置してということで考えておりましたけれども、早いうちに立ち上げてという話も前にしていたかというふうに思いますけれども、中山間事業の行く末、あるいは今までも中山間事業として取り組んできたということもあって、また中山間事業ができれば、その中でまた取り組んでいきたいなというふうな考えもありまして、若干、中山間事業がふらついていた時期もありまして、実際には協議会が立ち上がっておりません。そういったことで、今回、中山間事業の３期対策ができましたので、全町集落の体制が整備されたことから、中山間の全町集落を含め構成員を幅広く求めて、これの協議会を早急に立ち上げていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） なかなか立ち上げるというのも大変ですけども、中山間の中で鋭意努力しながら進めるというような報告でございました。わかりました。

それでは、2番目に移らせていただきたいと思います。

臭気対策という絡みの中で、各市街地周辺農家への対策が講じられておられると思います。その内容について、一つ目といたしまして、たしか各市街地周辺ごと2から3キロ以内の対策というようなことがうたわれておったかなと思いますが、これらの各市街地ごとの対象農家戸数と参加農家戸数、それと1戸当たりの助成金というか活動金というか、そこら辺も把握しておればお知らせをいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 臭気対策の取り組み内容についてでございますけれども、この実証期間につきましては、平成19年度から21年度の3カ年間、実施してきたところでございます。臭気対策事業として、まず定期的にスラリーストアに発酵促進資材これを投入し、通常ばっ気されているのと併用して発酵促進を早めようというのが一つ。それと二つ目は、スラリーストアのばっ気を補完するためのエアレーション、これはスラリーストアの中にパイプを入れて、パイプにあなをあけてブローで空気を送り込んで、そして助けてやるというような方法と微生物を併用した消臭、そういう取り組み。それともう一つ、三つ目としましては、散布直前に木酢液などのおいの強い、違うにおいの強い液を投入する方法、この三つの方法で行ったところでございます。

実証試験の区域についてでございますけれども、まず、別海市街半径4キロ程度を考慮して対象戸数を32戸、そのうち、これはお願いしてやっていただくので、そういったこともありまして、対象戸数は32戸ですけども、実際に参加された方は、お願いしたいのは8戸。それから、西春別の駅前、これは半径2キロ程度でございますけれども、対象農家を20戸として、お願いしたのが4戸。それから、上春別地域についても半径2キロ程度を考えまして24戸で、参加された農家が3戸と。西春別、通称旧市街では半径こも2キロで、16戸の対象農家で、2戸の参加でございました。それから、中西別市街地では半径2キロを中心に、14戸を対象にしましたが、参加農家は1戸でございます。それから、中春別市街については半径2キロで、対象農家が10戸、そのうち3戸が参加していただいております。合計で116戸の対象で、21戸の参加をいただいて実施をさせていただきました。

このほかに主要道路沿線も必要ではないかというような考え方もありまして、実証への参加要件として、3カ年は引き続き臭気対策を講じていただくことをお願いして始めたところでございます。参考でございますけれども、実証試験の参加の内容でございますけれども、スラリーストアのものが74戸、それから堆肥だけの7戸、堆肥盤と尿だめ、こういったのが3戸、それと尿だめだけの3戸、3年間で延べ87戸を対象として実証試験が行われております。

それから、戸当たりの助成金額でございますけれども、1戸当たり大体85万円を上限としてやっております。参考でございますけれども、実証戸数では19年度で22戸、1,874万7,000円程度、20年度で33戸、2,226万円、21年度で32戸で2,039万9,000円、3カ年で87戸で、6,137万4,000円程度をかけて実証試験をやらせていただきました。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） それぞれの市街地周辺を中心にしまして、第1段階というのが、それぞれ農家さんも含めまして、行政も含めまして、それぞれかなり努力されているなと思って、今、お聞きいたしております。

そういった中で、次に移らせていただきたいと思いますけれども、各種の臭気対策、軽減対策というのが実証試験、一部、今、部長が申されましたが、それらの検証、あるいはこれにかかわる状況調査報告がありますれば、お知らせをいただきたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたしたいと思います。

今回の計画については、家畜ふん尿の圃場散布時に発生する臭気の抑制方法を検討・検証するとともに、そういった取り組み事例を農家等へ情報提供して、臭気対策に対する農家意識の向上を図ろうということで進めてまいりましたが、しかし、最終的には根室農業普及センターの実証協力を得た結論から申しますと、スラリーの濃度や条件の違いによりまして、消臭発酵資材の関係が判然としないと。要するにスラリーの性状、それによってなかなか一律な答えが出てこないということですね。当然、そういった実証試験もやったのですが、最終的にはなかなか明確な答えが出なかった、そういうこともありまして、今後また続けていこうとは思っていますけれども、そんなような状況で、いずれにしても汎用性の高い資材・方法を明らかにするまでには至っておりません。

現在、ふん尿の水分調整、あるいは散布方法の工夫などできることから確実に実施し、臭気の低減を図る取り組みを普及・実践することが急務と考えておりますので、これについてもまた本年度からの中で取り組んでいって、一番いい方法がないだろうか。言われておりますのは、スラリーは当然ばっ気しながら加水してというのが、やはり一番発酵しやすいとは言われておりますけれども、今後、いろいろな面また研究していかないとというふうに思っています。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 臭気対策には、今、部長おっしゃられるように、いろいろなやり方というか方法があるわけで、経営形態によってそれぞれ違うわけで、大変農家の方もそれなりに努力をされてはおります。しかしながら、地域の方々から御理解をいただくまでには、なかなかもう少し時間かかるのかなと思っております。

3番目に移らせていただきたいと思いますけれども、こうした中、酪農家へのアンケート調査、またスラリー散布時、これ春先、あるいは1番、2番刈った後とか、あるいは秋口とかいろいろあるわけですが、スラリー散布農場の聞き取り調査、さらには酪農家の方々との勉強会というのですか、講習会というのか、そんなようなことももし実施されておれば、御報告をいただければ幸いです。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたしたいと思います。

実は、平成21年11月20日付で、別海町酪農畜産関連事業アンケート調査というのを各農協にお願いしてやっております。その内容の中に、ふん尿の散布時期やふん尿の臭気についての回答がありますので、これをお知らせしたいと思いますけれども、ただ、回答率は28%でございます。スラリーを特定して聞き取りではありませんが、「ふん尿散布時の臭気は気になりますか」という問いに対して、「大変気になる」、「少しになる」

と答えた方が72%ございます。反面、「余り気にならない」、「全く気にならない」という人方が28%おります。次に、「ふん尿の散布時の臭気対策は必要と思うか」という問いに対しまして、「必要」、あるいは「必要だが方法がない」と答えた方が78%、反面、「必要ない」との回答が22%ありました。ということからいくと、非常に皆さんも気になっているのではないかというふうに思っております。

そのほかに酪農家の方々との勉強会でございますけれども、これにつきましては町が主催しました酪農講座の中で、これは財団法人畜産環境整備機構から講師をお呼びしまして、ふん尿の利活用技術の講習を農業者及び農業関係者を対象として行っております。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 今、臭気を感じ方というようなことのアンケート28%の回収率の中で、においについて気になるというのが78、約8割、それから散布時期も設定必要だというのが、大体8割近くおられるということですので、現場に入りますと、入れ物が満足にないというような中であふれてしまう。6カ月と言いますけれども、実際は7カ月ぐらいの冬期間があると、どうしても1カ月こぼれてしまうというようなことで、春先早くまくとか、秋口遅くまくとかいろいろ尿だめの関係があって、そういうような形になっていると。アンケートではこうなっておりますけれども、私これ調べたら、根釧農試の去年のデータなのでございますけれども、大体同じような報告されているので、別海町だけでなく大ざっぱに言って、大体そういう方向かなと思います。

しかしながら、今、私が申すように、現場サイド、農家サイドの立場になりますれば、一生懸命努力はされておるのですが、なかなか思うようにいかないというのが大きく言いまして、しかしながら地域との理解を得ながら、合意を得ながら、臭気の問題を解決に向けて努力するということもまた大事なかと、こう思います。

そういった中で3番といたしまして、JAを初め関係機関との密なる連絡調整協調を図りながら、地域住民とともに繁栄のできる取り組みの構築が必要かなと考えます。そこで、町長の御所見をお伺いしたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

佐藤議員御指摘のとおりだと思っております。ふん尿の臭気対策、臭気につきましては、まさに基幹産業であります別海町酪農のイメージ、これを高める上にも家畜ふん尿の臭気の低減を図り、そして快適な農村社会の形成に努める、このことは大変重要なことだと、私も認識しているところでございます。JAを初め関係機関・酪農家・そして地域の住民の皆様を含めた臭気対策協議会、これを早期に設立をいたしまして、この中で十分検討し、臭気削減にさらに努力をしてまいりたい、そのように考えているところであります。御理解をいただきたいと思います。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 佐藤議員。

12番（佐藤初雄君） 今、町長から、取り組みに対する決意が述べられました。まさにそのとおりでございます。そういった意味で、行政として町長が先頭に立ちまして、JAを含めまして関係機関、そして当該者である酪農家とスクラムを組んで、よりよい地域に根差した酪農の繁栄ができることを心から願うものでございます。

以上をもちまして、簡単ですが、私の質問を終わらせていただきたいと思います。

す。

議長（渡邊政吉君） 以上をもちまして、佐藤初雄議員の一般質問を終了いたします。
ここで、１０分間休憩いたします。

午後 １時４８分 休憩

午後 １時５８分 再開

議長（渡邊政吉君） それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

次に、７番丹羽勝夫議員、質問者席にお着きください。

なお、質問は、一問一答方式でございます。

７番（丹羽勝夫君） 通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、私が、以前に一般質問で行ったことについて不明な点、疑問に感じていることの確認等含め、再度、大きく３点について質問させていただきます。

最初に、別海町機構図配付の件につきまして。

前回の一般質問の後、いまだ何のアクションもありませんので、再度、機構図配布について質問させていただこうと、今回通告をいたしました。が、通告後、今月の１０日ですけれども、全員協議会で理事者側から、機構図を全戸配布するものの説明がありました。内容は、配布はしますが、１０月に異動があるため、配布は１１月、遅くても年内ということです。少々、理解、納得できかねますので、通告外かもしれませんが、このことも含めた中で質問させていただきたいことを御了承願いたいと思います。

２２年度の別海町機構図は、主だったところには早い時期に何部か配布されています。ということは、個々の同意を得、原稿は既にできあがって既にあるわけですから、印刷して配布しようとするれば、いつでもできることかなと思います。しかし、いまだ配布には至っておりません。あとは、町長の一声で決まることかと思いますが、いかがでしょうか。配布がおくれている理由、配布時期をお知らせ願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 丹羽議員の御質問にお答え申し上げます。

役場の機構図につきましては、ことしの６月定例会、これにおきましても質問があったところであります。その時も配布をする方向で、今後検討していくということを答弁をいたしました。その後、行財政改革の観点、また、どの範囲までの職員を記載していくか等々、いろいろな検討をしまいったところでありますが、従来どおり、いわゆる２０年度に配布されたものと同等のものを、機構図を配布することとしたところでございます。

また、配布を取りやめたことにつきましては、いろいろな先ほど言いました検討材料があったことではございますが、まさに町民の視点を大事にしていく、このような大きな方針に欠けていた点があったのかなと、その点については、反省をいたすところでございます。なお、配布につきましては、できれば１１月の町広報の配布とともに配布をしたいなと、そのように考えているところでございますので、ぜひ御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

７番（丹羽勝夫君） 私も全戸に配布になるということで、まず一安心したのですけれども、先ほど申しましたように、時期的な問題なのですけれども、大変おくれているということでございます。６月の質問も、いつの段階で配布が決まったのか、また、とりあえ

ず今の質問で、いつの段階で配布しようということが決まったのか、もしお答えできるようにであればお願いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） いつ配布が決まったのかということでございますけれども、丹羽議員のほうから、6月の定例会の時に質問いただきまして、町長からは、配布する方向で検討するということで話がありまして、私も担当のほうにそのまま伝えまして、いろいろ検討しておりまして、今回、当然に配布するという方向で検討しております。

先ほど、町長からも話ありましたけれども、10月1日付で人事異動もございます。新規採用職員もございますし、今まで4月以降に約10名程度の異動、あるいは退職者もありました。今回9月の今月末でお医者さんも退職するということで、町長からも行政報告がありましたけれども、10月1日にまた人事異動、あるいは退職者の関係もありますので、それらの職員の方々の整理をして、10月1日現在の名簿で配布をしたいということで考えております。

それは、いつ決定したということにつきましては、ずっと検討してきてまいりして、当然、そういう時期には配布したいということで考えておりましたので、今、いつ決めたのだと言われても、ちょっと答弁できない部分もありますので、御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 6月の質問の後、それでは配布に向けた方向で進んでほしいということで進めれば、10月1日の異動の問題なんか関係ないと思うのですよ。そう思いませんか。例えば、10月1日で関係があるとすれば、早くつくっても10月1日で異動が変わった場合に、べつかい広報だとかそういうものがあるわけですから、そういうものをうまく利用してやれば、配布しますということでやるということであれば、既に7月、8月に配布されてもいいわけなのです。その辺。ですから、私、今、いつの段階で配布を決めたのだということは、そういう意味を含めて聞いたわけです。ですから、改めてお聞きしますけれども、配布を町長のほうから指示されていつ決められたのか、再度お聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 先ほども部長のほうから答弁したとおり、6月定例会において御質問いただきまして、その時に配布の方向で検討するということを私が答弁いたしました。その時点で、配布をすることについては決まったということと、私は思っておりますし、職員も多分そう思っていたと思います。

したがって、その後、さまざまないわゆる従前どおりの機構図をやめた、そういう経緯がありますから、それらについてその行革、先ほども私がお話しましたような検討も重ねながら、どういう機構図を配布したらいいのかということも含めて検討してきたところでありますし、また人事異動でありますとか、退職者とかありますが、そういうことも含めた出ず側としては、なるべく現状にしっかり合ったものを出したいという、その思いは当然理解していただけるものだろうと思いますし、それについて多少おくれたということは、そういうことも考慮しながらおくれたということを感じるかもしれませんが、ぜひその辺は御理解をいただける許容の範囲であろうと、そのように思っているところであります。ぜひ御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 今、町長が言われているように、6月の一般質問後に配布しましょうということは町長は決めたところ。ところが、それが職員に伝わっていないのかどうか、最終的には11月というような形になったということかと思います。

それで中身について検討しますと、検討がおくれていると、町民に対してよりいいものを配布したいということですが、そうであれば私も議会に参考資料としていただいた15ページにわたる機構図です。では、これは中身に対して検討しなくてもいいのかどうか、このまま印刷すれば配布できることなのだと思いますが、その辺、それではどうなのですかね。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） ですから、先ほどから申し上げているように、この問題というのは行革の観点も含めて検討してきて、全戸に配布はやめよう。しかしながら、必要なところには従来どおり、必要なところ、例えば町内会含めて社協・民生児童委員の皆さんとか、いろいろ形の中で必要なところもあるのです。そういうところには、ちゃんと配付をしていきたいと思いますということで取り組んできたことでもありますので、ぜひその辺は。我々は、多少の機構図を配布することによって、そんなに莫大なお金がかかるわけでもありませんが、徹底した行財政改革を、むだ遣いにつながるようなものは徹底して排除していこうという、そういう中で必要なところであれば配布していくと。そういうところが、行革の観点かなということもありましたので、どの程度の機構図であれば、機構図として配布したものが町民の皆さんに支障を来さないのか、その辺も含めてただいままで検討して結果がありますので、その結果、町民の皆さんがそれをもし求めるのであれば、町民の視点から変えて、今までどおりの機構図というものを配布しよう、ということになったわけがあります。

したがって、ただ単純に配ればいいのかという話ではなくて、やはり我々は本当に必要なものであれば、従来どおり配っていたことだと思いますが、その辺も考慮してどの程度で、必要なところには必ず配る。それは前提としてやってきたところでありますので、ぜひ御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） ちょっとお聞きしている内容と、答弁がかみ合わないのかもしれませんが、町民がこれをいただければ、何も言うことはないかと思いますが、ただ、心配しているのは理事者側であって、ただ、それがどうして6月までにこういった中身のものが発行されているにもかかわらず、6月でそれでは配布を全戸に出しましょうというときに、既に原稿はあるわけですよ。それがどうして11月でないとできないかと、11月まで延びたのだというのが私の質問なのだと思いますが、今まで既に出てないわけですから、配布してないわけですから、それをまた論議してもかみ合わないと思いますので、この件については一応11月、または年内というような考え方で押さえておきたいなと思います。

それでは、2番目に入らせていただきます。

全戸配布に当たって、当初、個人的に私がお聞きしていた金額と大きく違っているように思いますので、改めてお尋ねいたします。今年度、既に配布された分、先ほど言っていたこの分ですね、それから、これから配布されるでしょう。これ、平成20年度に全戸に出された機構図でございます。それが、これから出されるでしょう。11月になるか12月になるかわからないです。その分の金額的なもの。また、過去に全戸に配布していたときの費用、この部分ですね、これがどのぐらいにかかっているのか、お知らせいただきたい

なと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをしたいと思います。

6月の定例会のときにも、私のほうから答弁していると思いますが、行革の観点から見直しをした際に、所管のほうから上がってきた予算要求の機構図に係る印刷代、これが20万3,000円程度かかっていたということで、この金額の説明をしたと思います。その時も20万3,000円ということでお話をしております。まず、それを前段に回答しておきまして、既に配布した分につきましては、6月定例会で説明いたしましたけれども、議員の皆様ほか全部で9カ所になります。そこへの配布、その後に各自治会長さんから、自治会長さんのほうへ配布した分を合わせまして、コピー代と用紙代これになります。おおむね3,400円程度、本年度になってからですね、かかっております。

また、今後、町民全戸配布ということでございます。今、町長から話がありました全戸配布をする場合の経費になりますけれども、約5,800部作成することといたしまして、前回と同様印刷業者に発注することになりますけれども、約20万円程度かかると考えております。しかしながら、予算はありません。予算計上しておりませんので、もし、予算の発注をするということになりますと、予備費で対応いたしたいと考えておりますので、この辺についても御理解をいただきたいと思います。

なお、平成20年度の経費でございますけれども、21万7,000円程度、印刷代で上がっております。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） そうしますと、最終的に以前に発行していたときは21万7,000円かかっていたということで、これ間違いありません。それで前回の数字の中で、今回は20万3,000円ですということですが、これから配布される分に関しましては、20万円で予算を組むということで間違いありません。

それと、今までこの印刷代に対してはコピーでやっているのが3,400円、ということは今まで21万円の全体でかかっていたものを、今回は20万円でやりたいという解釈でよろしいのでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 実は町長から、今回の回答、11月に向けて印刷をかけようと、業者のほうから見積もりを取っております。その見積もりの内容で、大体このぐらいということでございまして、それぞれ先ほど説明いたしました21年度の担当から上がってきておりました予算要求の20万3,000円につきましても、恐らくその時点では業者さんのほうから見積書を取って、その見積書に基づいて予算の要求をしたのではないかと思います。今回につきましても、20万円程度ということでございますけれども、これはあくまでも見積もりの参考価格でございますので、予算は、これ以上の予算を確保しなければならぬかなということで考えてはおります。

あくまでも見込みで、これからの話になりますので、もう業者さんのほうにお願いして発注しているわけではありませぬので、基本的にはこれからきちっとした見積もり合わせをやって、予算のほうも確保して、執行していきたいということで考えております。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） そうでしょうね、あくまでもこれからということですから、数字

はつかめないかと思います。私からすると、以前にこれ出したとき21万7,000円、今回は両方出さなければならなかったわけです。恐らく21万7,000円よりは高くなるなという返答があるのかなと思いましたが、逆に安くやるということですから、かなりの努力をされているのかなというふうに逆に感じたところです。

当初は、全戸への配布はしない方向で進んでいました。その理由も何点か掲げておりましたが、ここに来て今回これを約20万円をかけて、全戸配布ということにしたようですが、全戸配布しない理由、内容の全戸配布しないと、この理由の内容の甘さがこんな結果になったことかなと感じておりますが、再度、町長、その辺の見解をお願いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） これも先ほど答弁しているとおり、したがっていろいろな検討をしてみましたが、いわゆる町民の視点、それをいささか欠いたところがあるのかな、そういうことで反省をしていると申し上げたところであります。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 何度も陳謝しているのをまた再度請求したようで、まことに申しわけありませんけれども、おくれているということに対して私ども、また町民からたくさんそういう要望がありましたので、私としてもこの場で聞いておかなければならないということでございますので、御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 次の質問に入りたいと思いますけれども、入湯税の件について御質問いたします。

入湯税が150円のところ50円に今回なりました。利用者の私どもは、100円安く利用できると思いきや別海市街では1件しかない浴場で、500円だった入湯税込みですが入浴料が600円となり、逆に100円の出し前のありさまで。郊楽苑は民間ですから、入浴料は幾らにするかは勝手ですし、私どもはそれに対して何も申し上げることはございません。何ももちろん言えませんが、では町は、だれのために入湯税を下げたのでしょうか。裏を返して言いますと、入湯税を下げた理由と、どうしてあのタイミング、時期であったのかを教えてくださいたいと思います。

他町では、入湯税70円で入浴料430円と、良心的なところもあります。別海町は現状で問題はないとお考えでしょうか、公衆浴場の有無を含め浴場利用者の納得のいく策を教えてくださいたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたしたいと思います。

入湯税の税率の改正につきましては、3月の定例会において議決をいただきました。4月から宿泊1日につき100円、日帰り50円として課税をさせていただいているところでございます。このことは既に御理解をいただいていることと思いますが、近隣の自治体の税率等との問題、あるいは全道的な課税状況もあり、以前から見直しの必要があったことから、入湯客の税負担の軽減を図り、より利用していただきやすくするため、あるいは近年の観光客の入り込み数の減少、これらによります鉱泉浴場経営の健全化に資するため、慎重な検討をしながら改正をさせていただいたところでございます。

現在、課税申告事業所は五つございます。入湯税を下げることにより、入湯客の負担は軽減されたところでありますが、施設の利用料金については、これはあくまでも事業者が

決定するものであり、私どもから申し上げる立場にはございません。入湯税は、行政が決定し、利用料は事業者が決定するものでございます。事業者を入湯税の特別徴収義務者として指定しているため、施設の窓口では利用者からは税と利用料を同時に徴収することになります。全く別なものでありますので、御理解をいただきたいと思います。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 全くそのとおりなのです。入浴料を決めるのは、個人のそういった会社ですから。ところが今50円になりましたよと、それでは私方が日帰り入浴をしようとしたときに、150円が50円になって600円です。経営者側からすれば、550円が入浴料です。50円が税金なのです。ところが、100円安くなったのではあれば、どうして私方そういう金額を払わなければならないかと、施設側が値段を決めているからです。ところが、私が問題にしているのは、別海の市街地に浴場は今1軒しかないのです。日帰り入浴ができるところ。ですから、私方町民がそこを利用するに当たって、どうして600円を払わなければならないのか、端的に言って納得がいかないと、そういうことなのです。ということは、郊楽苑自体は、町が賃貸契約をして貸しているわけですから、物申せるのは、その辺しかないのかなと思うのですけれども、この辺はいかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 副町長。

副町長（磯田俊夫君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

3月の全員協議会で、私は入湯税の関係について、経過等々を説明したはずでございます。似たような御質問が、ほかの議員さんから出ましたけれども、はっきりとこういったはずであります。税の課税だとか徴収については、公平で公正であることが大原則であります。したがって、事業者のため云々で税率の改正だとか、賦課だとか、徴収だとか、そういうことは一切やっておりません。もしこれで税率改正をするのであれば、これは大変大きな問題であります。なおかつ、その説明のもとに皆さん方に議決をいただいたはずであります。しかし、残念ながら6月の定例会から、こういうようなお話が続いております。であれば、そういう問題があるのであれば、それは皆さん方の委員会の中でも十分練れるはずではないかという、私個人的にはそう思います。

それともう一つは、そういうことであるなら、前提といたしまして、郊楽苑の入浴料の問題と税の問題を一緒にして考えるということが、私、一番先に税の原則で言いましたけれども、おかしいのであります。それをやってしまうと、今のような話がずっと続く。そんなことで税の問題と入浴料の問題を一緒にしてお考えになるのだけは、ぜひおやめになっていただきたいと節にお願い申し上げます。

それで、改めて3月の全員協議会で申し上げたことの中の何点か申し上げます。入浴料の問題について、検討を指示したのは平成19年度であります。これは当時の郊楽苑の支配人さんのほうから、ちょうど第三セクターの見直しの関係について、いろいろとレポートが提出されまして、その中にあった1件でございます。それで全道的な入湯税の状況を把握するように、その中で気になったのが、ほかの町と比べられないことがたった一つありました。郊楽苑と、当時は別海温泉ホテルでございます。それは温泉を加温しているということで、ほかの町では源泉をそのまま利用できるのですが、うちの町の2軒の施設だけは加温をしなければならないという事実がわかりました。一概に、状況をただ見るだけの比較はできないと、そういうことで検討を平成19年であります。その後、平成20

年末だと思いますが、ガスの問題が飛び出てきました。これは別海から浜にかけてガス問題を、どうしても処理しなければならないということが出てきたわけであります。それで御承知のように、昨年、実は全道でもうちだけですけれども、補助をつけて整備をしましょうという問題が出たわけです。

そういうことを踏まえて、実は今年度まで引っ張りました。なぜかという、第三セクターの整理のほうが当時は大変でございましたので、入湯税だけできなかつたと。入湯税をやると、また、そういう誤解を受けるのではないかとということもありまして、ことしの3月、いわゆる平成22年の4月にしましょうということにしたわけであります。そんな経過のもとに、これを見直しをかけたわけであります。したがって、事業者だとかそういうことのためではございません。先ほど、総務部長が申し上げましたけれども、税はいわゆる納税者の負担軽減が原則で実行させていただきました。この点だけは、ひとつ誤解のないようにしていただきたいと思います。

以上であります。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） ですから、入浴料は私方が決めることはできないと、こう言っているのですよ。ですから税金と全く別な考え方なのです。ただ、今の現状でいいのですかと聞いているのは、別海町の場合150円の入湯税が50円になりましたよと、その見返りは私方どこに出てくるのですか。税金は決まりますよ、50円、これ皆さん一律ですよ。実際に入りに行くときですよ、600円のところもあれば500円のところもある、中標津へ行けば430円で行れるところもあるのですよ。ですから、150円のところが50円になったのであれば、日帰り入浴の150円が、50円が見えてこなければならぬのですよ。ですから、事業者のところへ払うのは600円払いますよ。場所によっては500円払いますよ。宿泊であれば、宿泊料幾ら、入湯税幾らと数字が出てきます。一般入浴の場合は出てきませんよ。それは皆さんが気がつかないのかもしれない、600円から600円払うと、その中の税金が今回は50円になったよということだけのことなのです。

ですから、逆に言えば、この近郊で600円というのは1カ所、あと中標津あたりへ行っても500円、400円台、そういう金額なのですよ。ですから、私が公衆浴場の有無、ほかにそういうものも考えて、別海町は我々利用するに当たって何かいい策が、逆にありませんかというふうにお聞きしているのですよ。その辺を含めて再度、町長、お考え方をお願いします。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げます。

我々、入湯税を下げさせていただいたということについては、先ほど説明したとおりであります。したがって、下げた分だけ入浴料を安くしてくださいということは、言うつもりは全くございません。したがって、今までの現状を見ても大変であるから、長い間、以前から19年からそういう話も出ておりましたし、そういう形で五つの施設がございしますが、その全体の経営、それから観光客が減少していることに対する支援もあらうと考えられることもあるかもしれませんが、大体北海道全体眺めても、まさに入湯税ゼロのところも多々あります。そういう状況、そして特にこの周辺も含めて検討した結果であります。

したがって、入湯税を下げた分だけ事業者の皆さんに入浴料について下げてくれという

ようなことは、我々は申し上げることはございません。そして、郊楽苑については600円、100円値上げをしたと、それぞれ事業者ですから、いろいろなお考えがあって値上げをされたのだらうと思います。いわゆる沸かさなければならぬというコストの面もあります。それから、やはり事業者というのは、入浴料の見合ったいろいろなサービス含めて、いろいろなことを考えながら入浴料を設定していくのだらうと、そう思います。したがって、単にすべてのほかのところと比べて、ここが高いとか安いとかそれもいわゆる総トータルのサービスのことを考えると、一概には言えないところもあるのだらう、そのように思っております。

したがって、そういうことでございますので、また、もっとも町が法外に高いということになれば、それはある意味において町としても考えなければなりませんけれども、一概に今600円ということについては、そのような法外なところとは我々は全く考えておりませんので、サービス等含めて、あとは利用されているお客さんが判断する、そういうことだと思っております。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 現状のままでは、問題はないということになるし、また、公衆浴場の有無に関しても一切町側としても、それは問題はないという受けとめ方でとらえさせておきたいと思います。まず、そんなところでよろしいでしょうか、そういうふうに取り扱ってよろしいでしょうか。

私の質問の中に、現状で問題ないとお考えでしょうかという部門と公衆浴場の有無を含めて、浴場利用者の納得のいく策がありませんかということだったのですけれども、現状で問題はありませんかということを確認したいと思います。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） もう1軒、清乃湯さんがございますが、今、病院で療養中で、現在は閉まっているということでもあります。町として、公衆浴場がそういう形でないという状況で、その状況でいいのかということになると、やはりあったほうがいいに決まっているわけですから、それ公衆浴場としてなるべく安い料金で入っていただけるために、どうするのかという御質問かもしれませんが、現在のところ、そういうことを考慮して他の事業者にも町が補助金を出して、公衆浴場としての機能も発揮してもらおうということについては、今のところ考えておりませんし、考えていないということでもあります。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員、今の御答弁でよろしいですか。

丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） よくわかりました。私方は、安いところを選びながら、入ってくださいということになろうかなと思います。

続きまして、次の質問に入らせていただきます。

入湯税課税免除の基準内容についてお尋ねいたします。

このことも以前に質問させていただきました。課税免除基準年齢12歳未満の者となっておりますが、納税能力のない学生等に、入湯税が課せられていることに疑問を感じます。特に、修学旅行の学生に対する基準を見直す必要を感じます。

それから、高齢者についても日帰り入浴・宿泊に対する課税免除の適用、障がい者の障がい程度を明記して、課税免除対象とすること。

以上の3点に対する検討の進行状況をお知らせ願いますという質問です。簡単に、通告してありますのでお願いしたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをしたいと思います。

御質問の免除の基準内容でございますけれども、現在は、年齢１２歳未満の方と、共同浴場、または公衆浴場に入湯する方について、入湯税を課しないと規定をしております。３月定例会で改正していただきました税率の改正の内容につきましては、他の自治体でのこれらの免除基準も参考に改正させていただいたところでございます。今すぐに減免規定を見直す環境にはないということで判断をしているところでございます。しかしながら、今後必要に応じて検討は進めてまいりたいと考えております。

なお、高齢者、障がい者等についての減免規定につきましては、福祉入浴券の給付事業により、福祉政策として実施をしております。修学旅行の積極的な誘致の動き等を見ながら、補完的な政策として税の減免の必要性が出てきた場合には、これらも合わせて検討をしてみたいと考えております。しかしながら、現在のところ新たに減免規定を加えることは考えておりませんので、御理解をいただきたいと思います。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

７番（丹羽勝夫君） 必要に応じて出てくれば、再度検討したいということかなと思います。ぜひ問題が出てきたときには、早い速急なる手当てをお願いしたいなと思います。

それでは、大きな三つ目の質問に入らせていただきます。

郊楽苑に対しましては、民間でどなたも受けていただけなかった郊楽苑を借り受けていただき、喜んでいる１人でございます。入浴料税込み６００円のことを除きましては、町内外者に大きな貢献をされ、頑張っておられることに敬意を表したいと思っています。

その郊楽苑と町の賃貸契約内容が少し間違えると、競合する既存のホテル・旅館の経営方針等に与える影響が大きいものがあります。そういうところが懸念されるところでございます。こんなことを念頭に置き、２点の質問をさせていただきます。

１点目は、温泉設備の改修工事が必要ということで３，５００万円を計上いたしました。大変大きな数字ですので、前は３，５００万円の内容についてお尋ねいたしましたが、調査委託段階ということでした。当初、調査に必要な予算要求でよいものを１度に３，５００万円だったのは、何か数字的根拠でもあったのでしょうか。調査委託費、その他の内容と、工事の進行状況をお知らせ願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 丹羽議員の御質問にお答えしたいと思います。

郊楽苑の改修についてでございますけれども、保守や管理の点検業者から、地下ピット内の給・排水、給湯、ガス等の配管類が経年劣化や腐食、さびコブの発生等の懸念から、改修工事の必要性を指摘されていたところでございます。改修対策として、３，５００万円を平成２２年２月の臨時議会において、国の臨時交付金事業として議決をいただいたところでございます。

さきの臨時会でも説明しておりましたが、地元経済の活性化や雇用の促進などにもつながる国の経済対策の臨時交付金事業として計画したところでありまして、郊楽苑の配管改修に関しては、地下配管ピット内を全面改修すると、多額の経費がかかるようなこともありまして、必要最小限の配管を改修したいというふうに考えておりました。

改修必要箇所を決定する調査設計費分と合わせて、また、臨時交付金事業採択の時間等の関係から、改修内容等の調査が未了でありました。そのため、工事費や委託料の算定仕

分けが間に合わないということがございまして、非常に急いでいたということもありまして、こういった国の経済対策もあったということで、急遽この対策でやろうということで、そういったことで一括計上させていただきました。

予算計上に当たっては事業内容を精査し、適切な予算科目で計上するよう常日ごろ努めておりますけれども、こんなような状況がございましたので、事情御賢察の上、御理解をいただきたい、そういうふうに思っております。

なお、今回の調査等の設計段階では、図面等から改修対象数量をもとに、想定する配管の改修必要経費を試算して、これにより調査設計委託料を決定し、そして調査をし、工事・調査をすべく委託料を決定し、これの委託料については工事費から対応させていただいたというのが中身でございます。

また、この工事の進行状況でございますけれども、調査設計が終わり、去る9月9日に改修工事の入札執行が終わっておるところでございますけれども、まだ実質的には工事には着手しておりません。そういうような状況でございます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 急いでいたということで、一括3,500万円の要求を取ったということですが、あと、工事をしなければならないという指摘があったということは、どこから指摘があったのか。あと、調査費は幾らだったのかということに、委託調査ですね、工事と一括でということですが、これは調査委託費は別個に金額は出せるのですかね。もし、出せるということであれば、お知らせ願いたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えしたいと思います。

どこから指摘があったのかということでございますが、これは保守点検業者からの指摘でございます。それから、委託料につきましては173万2,500円で契約を結んでおります。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 事業としては、1件にかかわる金額としては大きい金額かなと思っておりますので、9月9日に行われた入札ですか、これは入札が行われて全体の金額は出されたのでしょうか。そして、例えば、納期的なものもあれば、そこら辺もわかればお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） お答えいたしたいと思います。

先ほど言いましたように、設計が終わって工事を発注したということで、この契約がなされておりますので、この金額につきましては管の改修工事で2,772万円という契約内容になっております。工期につきましては、郊楽苑、とりあえず町としての工期は12月10日ぐらいを見込んでおりますけれども、ただ、これはあくまで営業していたり何かしておりますので、これはまだ工事を着手していないということは、今後、株式会社郊楽苑側と十分その辺の営業の関係と照らし合わせながら、よく相談して行っていきたいと思っております。

逆に言えば、途中で工期の延長も考えられるのかなと、そんなような想定もしながら郊楽苑側と話をしていたきたいと思います。こちらの都合でいけば、12月ぐらいで終

われれば、一番短期間で終われていいのかなと思っています。

以上、そんなような状況です。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 2,700何十万円ということになりますと、今、配管なんかは郊楽苑の場合は建物の中を配管しているわけですけども、これはまた同じように建物の中につくるものなのか、外配管になるものなのか、その辺教えていただければと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） その辺につきましては、担当課長のほうが詳しいので、担当課長のほうから説明させていただきます。

議長（渡邊政吉君） 商工観光課長。

商工観光課長（岡田一芳君） 今の御質問について簡単に説明いたします。

既存の配管自体は、ピット内配管を主となっておりますが、それを新たに全面改修すると多額の費用がかかるという想定のもとで、基本的に調査をした不良の配管そのものを抜管調査をした箇所なのでですけども、それを改修をするという想定で今契約されております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） はい、わかりました。

時間がありませんので、次の質問に入らせていただきます。

さきの質問にもちょっと関係してきますが、賃貸契約時の現状維持の範囲の内容をお知らせ願います。現状維持でという契約でなされたかなと思いますが、例えば、時間がありませんので野外ステージ、何ですかあそこは、グリーン広場だとか、バーベキューハウスだとかそういうものは契約上、どのように扱われていたかということをお聞きしたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） まず、グリーン広場といいますか、あそこに舞台があるそういったところでございますが、これは町の直営で管理をしております。これについては、当然、町の管理下でありますので、これは一緒に貸し付けしておりませんので、これは町で今後、必要があるものについては補修をしたり、あるいはあその草刈りとかそういったものはしていきたいというふうに思っています。

それと、バーベキューハウスにつきましては、これは町の持ち物でございますので、あれについては郊楽苑のほうでお使いになっているということで、あの部分については町は直に携わず、郊楽苑側がもし補修だとか建てかえとかいうようなことが生じれば、これは株式会社郊楽苑でやるようになっております。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） それであれば、例えばグリーン広場なんかは、郊楽苑以外で町民で何かに使いたいという場合は、町側に行けば借りられるのか、郊楽苑へ行かなければダメなのか。

それともう一つ、バーベキューハウス、これは契約上どういうふうになっているかわかりませんが、例えば、土地の問題だとかそういうものは、きちりと契約の中であ

の場所はなされているのか。それから、契約した後に建物が増設されている場所なんかがあります。その場所なんかはどういうふうに契約されているのか、ちょっとお聞きしたいなと思います。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 先ほど、バーベキューハウスの話しましたが、うちの貸付対象物件に入っております。しかし、バーベキューハウスについては、株式会社郊楽苑のほうで何かあったときは対応してくださいということでお話ししております。

それと、今現在、新しく建った土地については、貸し付けの土地の中に入っている土地です。

もう一つ、グリーン広場の関係でございます。これは当然、どなたか町民の皆さんが使うということであれば、我々のほうに申請をいただければ、あいていればいつでもお貸し申しますし、また、有料でやる場合は、料金もいただくようなシステムになっております。ただ、減免措置とかいろいろなこともありますので、その用途によっていろいろかと思えます。

以上でございます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員。

7番（丹羽勝夫君） 例えば、ということはバーベキューハウスなんかは民間でちょっとお借りしたいなというときは、契約上、郊楽苑になっているわけですから、郊楽苑のほうにお願いしながら使わせてもらうということになるのでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 産業振興部長。

産業振興部長（飯島孝二君） 先ほども言ったように、バーベキューハウスも貸借物件になっています。ということは、株式会社郊楽苑が経営をしておりますので、これは株式会社郊楽苑のほうへお使いになるなら申し出て、当然、料金も取られます。普通と同じように、普通の焼き肉コーナーとして、郊楽苑が運営しているということでございますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

議長（渡邊政吉君） 丹羽議員、時間がありませんがよろしいですか。

7番（丹羽勝夫君） はい。よろしいです。

議長（渡邊政吉君） それでは、以上をもちまして、丹羽勝夫議員の一般質問を終了いたします。

10分間休憩いたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時10分 再開

議長（渡邊政吉君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

それでは次に、5番瀧川榮子議員、質問者席にお着きください。

なお、質問は、一問一答方式でございます。

5番（瀧川榮子君） 通告に従いまして、質問させていただきます。

まず、一つ目として、別海病院におけるソーシャルワーカーの必要性についてです。

今、建設中の病院には、相談室が図面上で配置されました。現在、別海病院では特定の相談室はなく、入院のしおりに「医療費に関して相談がある方は事務所までお尋ねください」と記入があるのみです。住民が相談したいことは、医療費だけではありません。「相談したいことがあるが、どこに行けばいいのかわからない」という方がおられます。不安

な気持ちで通院や入院をしている患者の皆さんや御家族のことを考えると、安心して時間を気にすることなく相談できる場が重要であると考え質問いたします。

一つ目として、現在、病院で医療や福祉・介護などについての相談は、どの部署で受け持っていますか。

議長（渡邊政吉君） 病院事務長。

病院事務長（真籠 毅君） 瀧川議員の質問にお答えいたします。

患者さんやその御家族からの相談については、どの部署で受け持っているかという御質問でございますが、当別海病院では地域唯一の病院として、気軽に何でも相談できる病院を目指して診療を行っております。現状では、外来患者さんからの各種相談につきましては、各外来診療科に配置されております事務担当のクラークとも言うのですけれども、そういった担当ですとか、看護師・ドクターなどがそれぞれの場面で、どのような相談に対しても院内で、連携をとりながら対応しているところでございます。

また、患者さんと相談内容によりまして、必要に応じて地域包括支援センターや保健センター、福祉関係担当等への連絡など、他部局とも連携をとりながら対応しているところでございます。

また、入院患者さんの転院時の調整ですとか、退院時における連絡調整につきましても、病棟の担当ドクターや看護師、各師長や総師長などが中心となって行っている状況でございます。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） そのようにして、必要に応じていろいろなところと連携をとって相談業務をしているということなのですからけれども、その中には医師とか看護師も入っているということで、大変な忙しい中でそういう業務も受け持っておられるのだなということを今の回答の中から感じました。

二つ目として、医療の高度化、高齢化などによる対応の増加、そして多剤耐性菌など報道にあるように、医療現場での危機管理再検討など、現在ある各専門分野での仕事がふえると考えますが、いかがですか。

議長（渡邊政吉君） 病院事務長。

病院事務長（真籠 毅君） お答えいたします。

医療の高度化、高齢化、危機管理等、各専門分野での仕事が今後ふえるかとの御質問でございますけれども、本院は高度医療機関という位置づけではございませんので、地域における1次医療機関としての役割を十分果たすことが必要であると考えております。さらに、予防医療を推進すること、それから町民に対して気軽に相談に乗ることができる病院にすることが、一番のいわゆる専門分野であると考えております。そのような意味では、今後、本院が目的を果たすための仕事、あるいは業務については、必然的にふえてくることになると考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） 専門分野での仕事が、確実にふえていくということなのですからけれども、医師も看護師もずっと不足のままの状態にいるということで、このままでいけば相談業務についても、本当に相談したいときに相談したい人がいないというような現状も起きてくるのではないかなと思いますし、現に住民の中には、「本当に相談したいのだけれ

ども、忙しそうで、相談なんてなかなかできそうにもないのだよね」というようなことがあります。この不足という状況が、この相談業務に与える影響、今後考えられるでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 病院事務長。

病院事務長（真籠 毅君） お答えいたします。

本院のような小規模な病院では、職員一人一人が患者さんや御家族の方に相談に乗る意識を持つこと、それから適材部署との連携やスムーズな連絡体制をとることが、基本的に必要なことと考えております。ただ、今、議員がおっしゃいますように、人手が足りないというのも事実な現状ではあります。さらに、今後におきましても、もっときめ細かな福祉行政が進められて、医療ですとか保健・福祉分野が連携した取り組みというのが、今後、さらに広がることが予想されますし、2次医療・3次医療機関との連携・強化も予測されます。その際には、通常業務に影響が出る可能性も十分あります。専門的な総合的な相談窓口を設ける、いわゆるメディカルソーシャルワーカーという位置づけになると思うのですが、そういったところで各種問題点、あるいは相談内容の集約化を図る、あるいは関係機関との調整を行うことにより、業務がスムーズに効率よく進められていく可能性は高いというふうに考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 現在ですと、職員一人一人、適材適所で相談に乗るということですが、職員の中には必要以上に分野に入っていけない、相談を受けることができない、相談を受けたいと思っても、自分の相談分野の範囲ではないというようなこともあって、やはり本当に必要なところで、必要な相談する人がいるということは大事なことだと思うのですが、それはさておきですね。病院の中で、管理・監督する人の指導のもとでソーシャルワーカーが、自分の仕事の分野で相談業務を行っていくということの範囲は、本当に広いものであると考えています。働いている職員の相談も含めて、相談に乗るということなのですが、病院としてはソーシャルワーカーの必要性ということについて、今後、導入していくというような考えがあるのかどうか、まずそこら辺のところをお聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 病院事務長。

病院事務長（真籠 毅君） 新町立別海病院の建設基本計画がございますけれども、その中では、「メディカルソーシャルワーカーを配置して、外来患者・家族に対して医療相談等を行うことを検討します」と実はなっております。現状では、専門的なソーシャルワーカーは、比較的大きな規模の病院ですとか、中核となる病院で主に配置されておりますけれども、本院のような規模の病院で患者さんなどからの相談ですとか、件数、社会的なニーズの変化など、詳しく調査を進めていった中で、今後、必要と結論づけられましたら、そういったところについては積極的な配置も含めて、視野に入れて検討してまいりたいというふうには考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 済みませんでした。基本計画のところ見たり、基本理念のところを見たり、いろいろなところ目を通してきたのですが、メディカルソーシャルワーカーを導入するということを見つけないことができていませんでした。

それがメディカルソーシャルワーカーを導入する、いろいろなことを検討しながら導入していくという方向性というのも出ているということです。ぜひ医療のソーシャルワーカーが専門的に看護師ではなくて、後期高齢者医療制度の分野では診療報酬の点数を入れるのに、看護師でもいいというところも出ているのですけれども、社会福祉士とか本当に専門のことを学んできた高度な情報を持った人がいるのと違って、看護師ではなかなかそこまではいかない。ただ、自分の専門分野のことしかわからないということもありますので、ぜひハード面だけでなく、ソフト面でも充実することが大切です。専門スタッフというのは、新しい病院では医療面だけではなくて、側面から患者さんや家族を支えていくということも本当に大切だと思います。

そういうふうにして、ソーシャルワーカーを導入するということで、今まで聞けなかった情報もソーシャルワーカーさんのほうには家族や患者さんから入って、病院の改善につながっていく、内容改善につながっていくという面も多々あると思いますので、ぜひ重要事項として検討していただきたいと思います。

次の質問に移ります。

別海町自治基本条例（仮称）策定についてです。

ことし3月の定例議会において、町長は行政執行方針で、平成22年には行政運営の基本原則や、自治推進のための基本理念を定める別海町自治基本条例（仮称）を町民の皆様とともに制定したいと述べ、準備に取りかかることになりました。

別海町自治基本条例職員研修研究プロジェクトチーム会議も開始され、講師を招いての研修会を含めて、短期集中と言ってよい1カ月の期間に、プロジェクトチームによる自治基本条例の素案ができたと聞きました。この素案を土台に、みんなでつくる自治基本条例検討委員会が、内容をさらにこれからの別海町を見据えて協議・検討し、内容を深めていくことになると思います。

そこで質問いたします。一つ目として、短期集中で行われたプロジェクトチームによる素案づくりは、非常に短時間でつくりあげられたと感じていますが、十分な協議の時間があつたかについてお聞きします。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたしたいと思います。

職員研究プロジェクトチームにつきましては、役場内各部署から選出した16名で構成をいたしました。8月6日から27日までの16日間で、2班に分けて13回開催をしております。延べ時間で約30時間以上の時間を費やしながら、検討を進めてまいりました。事務局としての素案があつたとはいえ、短い時間での通常業務に支障のない範囲での素案づくりにつきましては、プロジェクトチームの職員の皆さんに大変苦勞をかけたと思っておりますけれども、十分協議はされたと考えております。

条例の中には、先ほど佐藤初雄議員の質問に町長からお答えをしておりますが、見直しを行う条項を明記するよう考えておりますので、実態とそぐわないとか、あるいは変更したほうがいいなどの意見が出てきた場合には、見直しを検討する部分も明記しながら、制定後も柔軟に対応していくことといたしたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） インターネットの中から、プロジェクトチームがずっと行ってきた検討内容ですか、それを順を追って見せていただくことができましたけれども、この自

治基本条例つくるに当たっては、広報とかホームページを使ってこの検討状況、皆さんにお知らせするという内容を見ていきました。

ですけれども、多分、この30時間をかけられたということで、膨大な時間をかけられたと思うのですけれども、一般町民に身近に感じられる内容、条文がどんなふうになっているのかというようなことが全くわからなくて、プロジェクトチームが検討するたたき台になった条例案ですか、それもあると思うのですけれども、何もなくてただこんなことをしていますということの内容ですので、住民にとっては全く見えないに等しいものであるというふうにして思いました。

この中では、別海町としてどうあるべき、どうすべき、別海町としてふさわしい表現の検討などというふうにして文字は載っていて、それは本当に大変大切なことだと思うのですけれども、住民にとって内容が見えてこないということなのですから、この内容が見えるように、もう少し内容が見えるようにならないかなというのがあるのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 条例の制定までの時間、あるいは素案づくりまでの時間が長いか短いか、これらの議論はあると思いますけれども、全国でも148の自治体で、あるいは道内でも42の市町村で、既に条例が施行されております。こういうものを貴重な資料等もありますので、これらの先進自治体の条例等を参考にしながら、素案がまとめられたところでございます。

これから検討委員会、これは町民の皆様方に参加していただく検討委員会でございますが、こちらを設置しながら、そして地域説明会やパブリックコメントを実施しながら、本来の意味での条例づくりを進めていくことになります。まだ、素案の段階でございますので、これから町民の皆さんにお知らせしていく、議会のほうも含めまして、これから町民の皆さんに、その素案も含めてお知らせをしていくような状況になりますので御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） その素案を住民に知らせていくということで、私は本当にしつこいぐらい何回もホームページを開いてみて、きょうは出てないか、きょうは出てないかと思って開いてみました。ですけれども、素案が出ていません。ですので、この素案というのは、いろいろ練り直されて変化していくというふうには思うのですけれども、練り直される段階というのも住民にとっては、こういうことがあるからこんなふうにして練り直されたのだということで、さらに身近なものになっていくのではないかなと思うのですけれども、公表していくということなのですから、その公表の段階というのはどれぐらいを考えておられるのか、お聞きしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 現在のところ、議会のほうにも自治基本条例の全体のスケジュール等説明はしていますと思いますけれども、今後、広報・ホームページ等で策定状況の周知を逐次、実施していきたいというふうに考えております。9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月、最終的な条例の案の決定まで、その都度、広報・ホームページ等で策定状況の周知を進めたいということで考えております。

以上です。

議長（渡邊政吉君） もう1回、補足を総務部長。

総務部長（小守 正君） 素案の部分につきましては、議会のほうからも議会に関する部分ということで、議会のほうにお願いしていた部分が参りましたので、それと合わせて、まだ素案全体的な部分できておりませんでしたので、それを合体させた部分の全体的な素案は、議員の皆さん方にもまだお知らせはしておりません。それらも含めて時期を見て、できるだけ早い時期にホームページ等でお知らせをしたいと考えております。

総務部長（小守 正君） 瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） 住民もこの条例を自分たちの責任とか役割とか、いろいろなものを持って当たっていかねばならないということの中で、議員も一緒になってこの条例の中にある前文から最高規範まで早く見て、内容的にどんなことが書いてあるのかということも、住民の人と一緒に話し合うということが大変必要になってきていると考えます。住民の人自分たちのものとしていくためには、早い情報が必要であるというふうに考えますので、ぜひ一日も早いたき台としてつくりあげた素案というものを載せていただきたいというのと、私は、ホームページでまだかまだかと思って見ていたのですが、ホームページというのは、それを開く人だけにしか情報としては入ってきません。ですので、ホームページを開かない人にとっても見られるような情報源というのを、余り長い条文ではないと思うのですね、全体を合わせても。ですので、ぜひ皆さんが目を通すことのできるものにしていただきたいと思います。

それで、基本条例策定のための全体スケジュールでは、公募、団体推薦と職員で構成されるということで公募はされたのですが、3名しか公募はなかったということでした。この公募の人数というのは佐藤さんも聞かれたのですが、このままの人数でいくのか、団体推薦というのは多分決まっていると思うのですが、公募というのはこのままの人数でいくのか、10人なのに3人しか応募しなかったということで、それというのはちょっと不備があるのではないかなと思うのですが、この点についてお聞きします。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたします。

公募して3名応募がありました。これについては町のほうで公募して、町民の皆さん協力していただけると、条例づくりに協力していただけると、自主的に手を挙げていただいた方が3名しかいなかったということでございまして、そのほかに産業経済団体から8名、それから青年・女性関係から9名、教育・文化・スポーツ関係から5名、それから民生町づくり関係団体から5名、町内会から9名、合わせて36名程度の町民の皆さん方協力を得ながら、条例を制定していきたいということで考えておりますので、町として公募した方が3名しかいないから、どうこうという考え方持っておりません。集まった中で協力をし合いながら、作成に向けて対応していきたいと考えております。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） 公募された方が3名しかいないけれども、青年や女性やスポーツ・町内会と幅広く団体の推薦ではあっても住民である、町民であるということで押さえておられると思いました。人数的にも、まずまずたくさんの方が参加してくださるということで、ほかの自治基本条例をつくっている自治体よりは、人数的にもしかすれば多いのではないかなということを感じています。ぜひしっかりとしていきたいと思うのですが、議論を交わすという時間が検討スケジュール的に3回というふうになっていきます。皆さんどうなのか、職員の方で、たたき台としてつくられた素案ですね。まず

初めに、基本としてつくられたのを職員の人が、それをたたき台にしてつくった素案というのが今あると思うのですけれども、それというのは、職員の皆さんがつくったのは、皆さんにわかりやすく町民目線で、あいまいな言葉を使わなくてシンプルにということで、大変わかりやすいものができているのだろうなと思うのですけれども、内容的にかなりわかりやすいと言っても、内容的には意味深いものがあると思うのですね。検討スケジュールは3回というふうになっていきますけれども、私は一つの言葉でつまずいて、かなりたくさんの時間を費やして、やっと一つの言葉がわかったというようなことがありました。

この3回という検討スケジュールというのは、本当に10章まで前文から最高規範まで入れると12になるのですけれども、これについて短いというふうにして考えるのですけれども、そのところについては、先ほど、もし回数が少なければもう少し検討する必要があるということだったのですけれども、ちょっと詳しくお知らせいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたしたいと思います。

スケジュールの中に載っておりますけれども、検討委員会の開催の関係でございます。9月、10月、12月、この3回程度を予定して、この中で自治基本条例の制定について検討をしていくとしております。ただ、この3回というのは、3回で終わるということではございません。9月に計画した検討委員会につきましては、9月の中で1回で終わるのではなくて、今のところ大体6回程度ということで考えております。また、10月、12月にも検討ということで予定しておりますけれども、これらにつきましても今後の推移を見ながら、検討回数を決定していくこととしております。時期的に3回ということで、検討会議の開催回数とは別であることを御理解をいただきたいと思います。この3回の月で、大体1回その一月に6回程度を開催していただきたいということで考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 募集要項の中で、みんなでつくる自治基本条例検討委員会の中で、大体2回から3回ぐらいですよというようなことがありましたし、私たちがもらった資料の中でも大体3回ぐらいということだったので、そうかなと思っていたのですけれども、一月の間に何回も開いていただくということとか、それから団体の人とかがいろいろ入るということで、20年の5月に団体アンケートを取ったそういうふうな中からも十分に論議されるのかなと思いますので、ぜひ皆さんで話し合いをしていただきたいと思います。

三つ目として、町民に対して、広報やホームページで作成状況の周知を行い、意見を求めるとしています。広報やホームページでは中身が見えず、意見を述べるには情報不足でなると考えます。みんなでつくる自治基本条例検討委員会の公開が望まれますが、いかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 検討委員会の傍聴の関係でお答えをしたいと思います。

先ほどの質問にお答えいたしましたように、検討委員会は時期的に3回程度を予定しております。検討会議については、先ほども説明いたしましたが6回程度、それ以降は時期を見ながら検討していきたいということでございます。今後の推移見ながら決定したいと

考えておりますし、全体で何度の会議になるか、これについても検討会議の推移を見ないとわかりません。また、今後のスケジュールの中でも検討委員会で検討した後、役場内の協議、それから議会との協議等踏まえ、11月には地域説明会を町内3カ所で開催するよう計画をしております。

御質問の検討委員会での傍聴につきましては、検討会議で検討された内容が決定事項ではないことはもちろんですが、役場内の協議がされていないこと、議会への協議等がなされていないこと等を考慮いたしまして、現在のところ町民の皆様方が傍聴することまでは考えておりません。

検討内容等につきましては、先ほど申し上げましたとおり、町内3カ所で開催を予定しております地域説明会に出席をいただくか、あるいは町のホームページ等でお知らせすることも考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 私、何回も言うのですけれども、この素案というのを見れていません。どんなものがつくられているのだろうということで興味津々というのがあります。住民とすれば、知らないところでつくられていく、町民の役割や責任は、それは私たちにどんなふうにかかってくるのか、不安などもあると思います。

この検討委員会というのが、公開ないということの御説明がありました。地域の説明会が11月にあるということで、それが3回行われるということです。本当に公開とか傍聴とか、そういうことがないということであれば、公開があっても必要だと思うのは、地域3カ所というのではなくて、もっとたくさんのところで必要ではないかなというふうに思います。

時間帯も昼と夜というふうにして取るなど、1次産業の人とか、それから一般の職場で働いている人なら日中は行けない、酪農している人ならどうなのだろうということで、時間帯を考慮していただきたいですし、それから説明会に本当にトップの人たちばかりが行くというのではなくて、検討委員会の人たちが加わった職員のプロジェクトチームの人たちなどが、説明に加わってもいいのではないかと思うのです。作成に十分かわってきているということの中で、住民の思いは伝わるし、それから小さい説明会のほうが、住民の思いを聞きやすいということもあるのではないかと思います。

別海町は本当に広いので、尾岱沼と西春と別海でしましたと言われても、自分たちのところとは、全く関係のないところで開かれているというふうにして感じている住民はたくさんいますし、それからいろいろな説明会とかがあっても、そんな時間には行けない、それでいいと思っているのだろうかというような声も聞かれますので、時間帯を別枠、夜とか昼とか、それから地域を広げるとか、そういうこと必要だと思うのですけれども、いかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたしたいと思います。

先ほどの自治基本条例の検討委員会の開催でございますが、この中には職員プロジェクトチームのメンバーも入っております。そのようなことから、プロジェクトチームの職員も一緒になってということになりますので、御理解をいただきたいと思います。

また、会議の時間帯の関係、説明会も含めてでございますが、現在、この検討委員会の会議の開催の時間帯については、それぞれ今、各団体のほうから推薦いただいている方もおりますし、きょうも何名かの方上がってきています。その集まった方々にアンケート調

査を行いながら、どの時間が皆さん集まりやすいか、そういうことも調査しながら時間帯を設定していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） 失礼いたしました。答弁が漏れていたようでござひます。

地域説明会の関係につきましては、現在のところなかなか難しいかなということではあります。3カ所以外に、またふやすということになりますと時間的な余裕等もありますので、できれば3拠点のところに皆さんお集まりをいただければ幸ひということで、事務局のほうで考えているところでござひます。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 説明会を開くための時間帯のアンケート、これは委員会の委員さんに出されたものということですね。これは主役は委員会です。住民ではありません。こういうふうにして自治体の憲法というものをつくっていかうとすることに、やはり住民というのは大切な位置を占めると思ふのです。ですので、委員会の委員さんの意向だけで、住民もそれと同じというわけにはいかないと思ひます。

それとどういふのかな、憲法をつくるということでは話し合ひが必要ですよ。この憲法というのは、つくるのが自分たちの地域でも声が上がったのだよということの中で、住民の話題にもつながるし、意識もそこに向いていくというふうにして思ふのです。自分たちが参加して、練り上げられた自治基本条例を認識するということは、本当に大切なことで、それから町民は動き始めることができると思ふのです。

ですので、やはり時間がないからということではなくて、ここのところは一踏ん張りで、本当にこれを住民のものにしていくためには、説明する時間というものが大切だと思ひます。私たちは、今のところ内容が見えないために、話しようも何もないということなのですけれども、内容は本当に多岐にわたっていますし、細かい説明というのが必要だと思ひますが、再検討ということはありますでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） 住民の説明会のことにつきましては、瀧川議員のおっしゃことも十分理解できますので、今後、スケジュール的にはちょっときつい面もあるのは確かですけれども、そういう中でなるべく住民の皆さんに御意見を伺う、また自治基本条例について理解をいただくという意味においても、なるべくそういう機会をふやせるように、今後、努力しながら検討してまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） 3カ所が4カ所になったとかそういうことではなく、ぜひ広く説明会をしていただきたいと思ひます。

四つ目に移ります。

今年度中に、自治基本条例を制定するというところで動きが進んでいます。今年度中に制定するということを目標にせず、町民の意見を聞く時間をもっと設けて、町民が自分たちが守らなくてはならない、そしてこれからの町づくりに必要な条例と納得する時間の余裕が必要と考えますが、いかがでしょうか。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたしたいと思ひます。

町では、平成20年度に第6次総合計画、「ともにつくるべつかい創造プラン～笑顔あ

ふれる豊かさ実感のまちべつかい」を策定いたしました。平成21年度からスタートし、2年が経過しようとしております。この計画では、自治の仕組みを町民の皆さんが主役となって実現をすることとしております。そのためには、早期に自治基本条例を制定し、第6次別海町総合計画の達成に寄与しようとするものでございます。

また、条例の中には、つくりっぱなしとしないための検討委員会として、自治推進委員会の設置を盛り込むとともに、条例の見直しという項目を入れ、町民・行政・議会等皆様方で検討、見直しを進めていきながら、はぐくみ、発展させていこうと考えております。町民の皆様方に納得してもらった上で、条例を施行することは当然でございますが、仮に十分に納得していただけない場合があっても、今年度中の制定で終わりではなく、条例制定後においても積極的なPRを行いながら、町民の皆様方から意見等をいただき、条例の見直し等に反映させていきたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思ます。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5番（瀧川榮子君） つくりっぱなしにしないということで、それには住民が納得するということが必要だと思います。来年の4月にスタートする、もしそういうことになっても、その内容が練りに練られたものであれば住民は納得すると思うのですね。時間がないということで説明会もないよ、あれもない、これもないということになれば、納得する機会が全くなくなります。ですので、時間がないということを理由にせずに、住民が納得する時間をつくっていただきたいということがあります。

それと、今回9月の時点で広報にこの条例について、既に条例がつくられたところでは、見直しが行われていますということが載っていました。つくってもすぐ見直しできるのだよと、だから早くつくってもいいのだというような、見直しについてはまずという情報を住民に出して、つくってしまおうというふうにして考えているのではないかなと、ちょっと勘ぐってしまったりしたのですけれども、あくまでも見直しというのは時代の変化の中で必要とされたときに見直すということですので、今からほんの少し先のことにいついてまでは、きちんと見通した上で条例をつくっていくということが必要だと考えています。ですので、最終的には情報を早く出してほしいということと、住民への周知・徹底の時間、それをたくさんつくってほしいということが最終的な質問になります。

議長（渡邊政吉君） 町長。

町長（水沼 猛君） お答えを申し上げますが、いずれにいたしましてもこれからできれば3月の定例会で成立を目指したいということでやっておりますが、先ほども申し上げたとおり、6次計も2年を経過しておるし、9月から、今月からそういう形で検討委員会等含めて出発いたしますが、その間半年近くありますので、その中で月に6回ぐらいの検討会議をしながらやっていくということでございますので、そういう形の中で時間は十分といえますが、我々としては何とかその中で、そんなに拙速な形につくることなく、何とかその中でできるのではないかという思いを当然、検討委員会の会議の皆さんには大変な御苦勞をいただくことにはなりますけれども、そういうことも我々は大変そういう面では御苦勞をかけますが、しかしながらなるべく年度初めといえますが、区切りのいいところでこの条例をスタートさせていきたいと思ますし、また、このことについては私も実は公約にも自治基本条例の制定をということも訴えてまいりましたので、このプロジェクトチームができ上がる以前から町の部局については、ずっとこのことについてはいろいろな研究もしてきたところでもありますので、今、半年間ぐらいの間でという気持ちも瀧川議

員のほうにあるかもしれませんが、そういうことではなくて、その中でしっかり議論をできることを我々も期待をして、そして3月まで、今年度中に何とかいいものを別海にふさわしい基本条例をつくっていきたいと、そのように皆さん張り切ってやっていただいているものと思っていますので、ぜひ御理解をいただければなと思っています。

また、住民の皆さんの説明とか、御意見を伺いたいということも先ほども言いましたように、できるだけ我々も努力してまいりたいと思いますし、また、これから議会の皆さんもいろいろ内容についても、いろいろな議論がこれからされていくのだらうと思いますので、いろいろなところでまた御意見等いただければ我々もありがたいと思っていますので、いずれにいたしましても町民の皆さん含めて、議会の皆さん含めて、行政含めて、みんなでいわゆる住民の自治これをこれからの時代に合わせて拡充していく、そういう思いで我々はこれを制定しようとしているところでもありますので、ぜひ御理解をいただきたいなと思っています。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員。

5 番（瀧川榮子君） 最後に一つだけ。プロジェクトチームに出される前のたたき台になる素案の前のたたき台ですね、本当に一番最初に出された素案というのは、別海町の役場の中でいろいろな経験を積んだ、自治行政に経験を積んだ人たちでつくられたと思うのですけれども、これはどういう人たちによってつくられたのか、そのことを最後にお聞きます。

議長（渡邊政吉君） 総務部長。

総務部長（小守 正君） お答えをいたします。

担当している総合政策課の職員が作成したものでございます。

議長（渡邊政吉君） 瀧川議員、よろしいですか。

5 番（瀧川榮子君） はい。以上で終わります。

議長（渡邊政吉君） 以上をもちまして、瀧川榮子議員の一般質問を終了いたします。

散会宣告

議長（渡邊政吉君） 以上で、本日の日程は、すべて終了いたしました。

なお、明日は本会議は休会となります。

なお、午前10時から、各常任委員会の開催が予定されておりますので、各常任委員長初め委員会の皆様よろしくお願いいたします。

本日は、これにて散会いたします。

皆様、御苦労さまでした。

散会 午後 3時58分

上記は、地方自治法第 1 2 3 条の規定により会議の次第を記載したものである。

平成 年 月 日

署 名 者

別海町議会議長

議 員

議 員

議 員